

# 2017 年度事業報告（大学）

## 1. 基本方針

本学の教育理念は「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」を三本の柱とし、「リベラルアーツ教育」においては、キリスト教に立脚した人格教育により冷静な判断力を備えた「ぶれない個」を育む。「グローバル教育」においては、自己の意思を明確に表現し積極的に討論できる論理的思考力を涵養し、それを積極的に伝達し得る言語力を養成し、海外研修などを通して国際感覚を取得する。「キャリア教育」においては、女性の全生涯にわたって活躍できるライフキャリア概念を構築し、国際社会並びに地域社会に貢献できる女性の育成を目指す。

日本私立学校振興・共済事業団は、「平成 28 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」について、「入学定員 800 人以上の私立大学では定員超過を起こし、入学定員 800 人未満の私立大学では 72%が定員割れを起こしている」と公表した。本学においても 2012 年度の大学改組以来、国際教養学科においては定員割れが恒常化しており、本年度も一層厳しい状況が続いている。人間生活学部においても少子化及び他大学での同系列学科設置の影響などから今後ますます厳しくなり、本学は全学的な危機に直面していると言わざるを得ない。

このような状況の下にありつつも、日本における女子教育の現代的ニーズに応えるべく法人・大学が一体となって最大限の努力を惜しまない体制で臨みつつある。「広島女学院ならではのライフキャリア教育」へ舵を切り、2018 年 4 月より、2 学部 5 学科に再編し、女性の一生を視野に入れたプログラムを構築中である。即ち人間への理解を深める「人文学部」と女性の一生の支えとなる資格取得を支援する「人間生活学部」を充実させることによって、“学問”と“実践”の両方を学ぶことが出来るような教育体制の実現を目指すものである。さらに女性の一生をサポートするエンパワーメントセンターの充実も視野に入れる。共学化が進む中、「本学の女子教育に掛ける情熱と使命」を理解していただくために広報に全学を挙げて取り組み、入試に向けても広報戦略を刷新し、2018 年度には危機を打開する方向性を生み出すべく努力を続ける。

## 2. 具体的アクション

2017 年度事業計画	具体的な目標（数値目標）	執行状況	課題と対応										
<p><b>【大学全体】</b></p> <p>○2018 年度改組に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設置届出書類の提出 2017 年 1 月 31 日付で文部科学省より人文学部（国際英語学科、日本文化学科）、人間生活学部（生活デザイン学科、児童教育学科）について「届出」による設置が可能との回答があったことに伴い、書類提出の準備を行う。</li> <li>定員確保に向けた入試制度の確立及び広報活動の充実 2018 年度改組初年度に定員を確保するよう入試制度の見直しを行うとともに、広報媒体の作成、高校訪問、オープンキャンパス等を充実させる。</li> </ul> <p>○エンパワーメント活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エンパワーメントセンターの設置 女性にとってキャリアは就職で終わらない。女性の一生をサポートするエンパワーメントセンターのスタートに向けて具体的に作業を開始する。</li> <li>院長・学長が講師となり、同窓会とエンパワーメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>届出書類を作成し、4 月末に文部科学省に提出する。</li> <li>改組初年度に全学科の定員を確保する。</li> <li>設置準備スタッフを選任し、具体的な検討に入る。</li> <li>全 5 回の聖書研究会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 月 26 日に届出書類を提出済み【完了】。これをもって新学部・学科の告知・広報を開始し、6 月初旬及び 9 月期に全教員による高校訪問を実施した。</li> <li>各学科について、入試形態ごとに学生確保の目標値を定めて、プロセス管理を実施した。</li> <li>週 2 日程度勤務できるスタッフを人選中。 2018 年度に継続して人選を図る。</li> <li>事業完了。卒業生に留まらず、広く一般からも申込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降の安定した定員確保に向けて、さらに広報を充実させる必要がある。</li> </ul> <p>〔2018 年度入学予定者数〕</p> <p>人文学部</p> <table border="1"> <tr> <td>国際英語学科</td> <td>89 名（定員 65 名）</td> </tr> <tr> <td>日本文化学科</td> <td>46 名（定員 40 名）</td> </tr> </table> <p>人間生活学部</p> <table border="1"> <tr> <td>生活デザイン学科</td> <td>91 名（定員 65 名）</td> </tr> <tr> <td>管理栄養学科</td> <td>84 名（定員 70 名）</td> </tr> <tr> <td>児童教育学科</td> <td>82 名（定員 90 名）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>エンパワーメントセンターの事業推進に寄与する能力の高い人物が望まれる。卒業生のキャリアコンサルタントおよび産学連携の推進を図るに足る資格、資質を有することが望ましい。</li> </ul>	国際英語学科	89 名（定員 65 名）	日本文化学科	46 名（定員 40 名）	生活デザイン学科	91 名（定員 65 名）	管理栄養学科	84 名（定員 70 名）	児童教育学科	82 名（定員 90 名）
国際英語学科	89 名（定員 65 名）												
日本文化学科	46 名（定員 40 名）												
生活デザイン学科	91 名（定員 65 名）												
管理栄養学科	84 名（定員 70 名）												
児童教育学科	82 名（定員 90 名）												

<p>センターの共同開催による「聖書研究会」を 2017 年 6 月 24 日(土)から 5 回シリーズでスタートする他、社会で活躍している同窓生とのコラボプログラムを年間を通して組む。</p> <p>○ライフキャリア教育・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来の働き方アカデミー」の開催</li> </ul> <p>本学と Google 社、進研アドが連携して、女性がいきいきと働き続けられる社会を実現するためのアイデアを学生が創出し、社会に発信していくためのセミナー、ワークショップを開催する。これらの成果をライフキャリア教育の実践として広報につなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生対象事業の展開。</li> </ul> <p>・事前学習を 5 回実施した後、5 月 24 日(水)にセミナー、ワークショップを開催する (参加学生 70 名の予定)。</p>	<p>があり、聖書の勉強会としては異例の 200 名を超える参加者が集まった。</p> <p>第 1 回 (6/24) 参加者 194 名  第 2 回 (7/29) 参加者約 240 名  第 3 回 (10/14) 参加者約 140 名  第 4 回 (11/25) 参加者約 140 名  第 5 回 (2/24) 参加者 178 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島経済同友会との「包括的連携協力に関する協定書」締結 (8 月 1 日調印)。女性のキャリア育成、地域活性化、人的交流の推進、本学の人材育成への提言を柱としており、広島のみちづくり、ひとづくりに貢献すべく協定を結んだ。</li> <li>・卒業生対象事業 (2 件) 事業完了。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「卒業生の集い」(5/27 実施) 卒業生を対象に学長講演を主とした母校再訪の機会を設定。参加者約 70 名。</li> <li>①「キャリア・カウンセリング」(11/18 開催) キャリアについての相談会。キャリアセンター事務課長 (国家資格キャリアコンサルタント JCDA 認定) が対応。4 名参加。</li> <li>②「転職・再就職セミナー」(12/2 開催) 転職および再就職市場の現状、企業が求める人材についての情報収集を目的としてセミナーを開催。 講師：就職情報サイトマイナビ広島支社長。 12 名申し込み。</li> </ul> </li> </ul> <p>事業完了。ミニパンフレットを作成し、広報に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 月～5 月に渡り、事前学習、セミナー、ワークショップの 3 つのステップを通して、女性が働くことへの理解を深め、「未来の働き方」についてさまざまなアイデアを考えた。 学生が考えたアイデアはキャンペーンサイトに格納され、1000 以上のサポーター企業・団体に配信されるとともに、優秀なアイデアはサポーター企業で実践され</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具対的な事業計画を起こし、「女性」という切り口から地方創生のイニシアティブをとるブランディング事業に発展させていくことが望まれる。</li> <li>・次年度に向け充実を図る。</li> <li>・カウンセリングという性質上、対応できる人数に限りがある (4 名)。随時相談を受け付ける方向で対応することも考えうるが、スタッフ数 3 名のキャリアセンターにかかる負荷が懸念される。</li> <li>・今回はセミナーの開催にとどまるが、ワークショップなどを取り入れ、参加者間の交流を図ることも検討し、母校をより身近なものとして位置付けたい。また、必要とされる技能の習得をサポートする講座開設 (例：パソコン講座) の可能性も検討したい。</li> </ul>
--	---	---	---

<p>【教員組織編制】</p> <p>○改組に伴う教員組織のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組後の教員定員の確立</li> </ul> <p>改組の完成年度（2020年度）以降における教員組織のあり方を検討し、各学科及び共通教育部門の適正教員数を定める。</p> <p>【大学運営】</p> <p>○認証評価への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度大学基準協会による認証評価（第3期）に向けての準備</li> </ul> <p>第3期認証評価においては「内部質保証」が重点評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学人事委員会、大学評議会において検討し、理事会に提案する。</li> <li>・内部質保証委員会を設置し、事業計画の策定、事業の実施、自己点検・評価、改善策の提案・実施を行うPDCA</li> </ul>	<p>る。</p> <p>〔事前学習〕</p> <p>2～4年生を対象に、「働く意味」「女性が一生懸命働くとは」「理想と現実のギャップを知る」などのテーマで講演会・セミナー、グループワークなどの事前学習を、3～5月まで計5回、各回50人ほどの学生が参加して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回事前学習「働く条件を考える」 2017年3月17日</li> <li>・第2回事前学習「働く意味を考える」 2017年3月24日</li> <li>・第3回事前学習「湊学長からのメッセージ『女性が一生懸命働くとは？』」 2017年4月12日</li> <li>・第4回事前学習「講演『理想と現実のギャップ』を知る」 2017年4月26日</li> <li>・第5回事前学習「OGを交えてのグループディスカッション」 2017年5月17日</li> </ul> <p>〔セミナー・ワークショップ・プレゼンテーション〕</p> <p>2017年5月24日（水）15:00～18:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Womenwillプロジェクトチームによるセミナー「みんなで考えよう、働き方のこれからを」</li> <li>・学生ワークショップ「働きやすい社会のためのアイデアを考えよう」</li> <li>・学生プレゼンテーション</li> <li>・総評</li> <li>・未来の自分へのメッセージ記入</li> </ul> <p>・学長室会議において検討を開始している。教員組織の構成案がまとまった段階で、全学人事委員会、大学将来計画委員会等において検討した後、大学評議会において審議する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、内部質保証委員会を設置し、6月28日に第1回委員会を開催した。その後5回の委員会を開き、2016</li> </ul>	<p>2018年度に教員組織の在り方について検討し、2019年度に教員定員の策定を完了する。</p> <p>改組後における教育の達成状況（学習成果）を測定し、教育理念に見合う成果があがっているかを検証</p>
--	---	---	--

<p>項目となることをふまえて、これに耐えうる体制の整備を行うとともに、過去5年間の自己点検・評価を行い報告書作成の準備を行う。</p> <p>【国際教学部・国際教養学科】</p> <p>2018年度を目途に現学部・学科を人文学部に改組し、国際英語学科（GSE コース定員10名、英語文化コース定員55名）と日本文化学科（定員40名）の2学科（教職課程は英語と国語のみ）を新たに設ける。その際に、国際教養学科内の社会科学系メジャーの担当教員を人間生活学部生活デザイン学科（定員65名）の地域デザイン領域へ、ビジネス情報系メジャーの教員並びに基礎英語担当者を基礎科目部門へとそれぞれ配置換えを行う。</p> <p>○新旧カリキュラムの移行措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下、新旧カリキュラムを併行して運営する移行期間に向けて取り組むべき事業を掲げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①新学部の完成年度以前に退職を予定している教員の補充人事を行わない前提で、カリキュラム及び教職課程の運営に支障が生じないよう授業科目の新旧読替表を春学期末までに作成する。</li> <li>②在学生に対するきめ細かい指導を徹底し、不登校生、休学者、退学者などの減少に努める。特に、卒業学年についてはオリエンテーション時の履修指導に格別の配慮をする。</li> <li>③3年次の卒業研究プレセミナーのゼミサイズを10名以下に調整する。</li> </ul> </li> </ul> <p>○就職支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実就職率を3～4%程度上げるために、自己分析や業種・企業研究に加えてエントリーシートの添削や模擬面接などをゼミあるいは個別指導において体系的かつ積極的に実施することにより、3・4年生の就職支援を一層強化する。</li> </ul>	<p>サイクルが機能する体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月20日までに原案を作成する。</li> <li>・国際教養学科在学生全体の4%以下に抑制する。</li> <li>・1チューター当たり10名以下に抑制する。</li> <li>・実就職率3～4%のアップ。</li> </ul>	<p>年度自己点検・評価報告書に記載された改善を要する課題及び卒業生アンケートの自由記述に記載された改善要望にもとづいて、具体的な改善策を検討した。その結果、職員の対応、コンピュータ環境、学食・売店、トイレ環境、つばめバスについて改善が必要であるので、早急に対応することとした。</p> <p>2018年度に向けた募集活動（オープンキャンパス、高校への出張模擬授業、学部・学科の説明会など）を新たな教員組織ごとを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業完了。</li> <li>・学部教授会及び学科会において個々の学生に関する情報を教員全員で共有することにより問題を抱えた学生に対する支援を強化した。</li> <li>・秋学期における説明会において人数制限についての確に説明する。した。ゼミ分けでは、人数超過ゼミの学生を集め、丁寧に説明し、学生の了解のもと、人数調整を完了した。</li> <li>・学科会において就職活動継続者に関する情報を全教員が共有するとともにキャリアセンターとの連携を強めることにより、個々の学生のニーズに応じた支援を展開している。</li> <li>・3月20日時点において、2017年度の実就職率よりも、</li> </ul>	<p>する体制を整えて、新学部・学科の完成まで内部質保証のPDCAを機能させていく必要がある。</p> <p>生活デザイン学科「地域デザイン領域」の3つのポリシー、カリキュラム、卒業後の進路などを見えやすくすることにより、2018年度の募集活動の成果を上げる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的あるいは財政的な理由で不登校、休学、退学、除籍に追い込まれるケースが少なからずある。それゆえ、チューター、教務課員、学生課員の対応にも限界があり、学生対応に苦慮している。</li> <li>・休職による平和学メジャー教員の不在、休学留学からの帰国学生への対応、社会系メジャーへの希望の偏りにより、10名以内に抑えることはできなかったが、最大15名に抑えることができた。</li> </ul>
--	--	--	--

<p>○海外研修・海外留学の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成をめざして海外研修ならびに海外留学を一層活性化させるために、事前説明会及び報告発表会に工夫を加える。</li> </ul> <p>○人文学部の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文学部の新たな試み（①新入生に対する週1回の1対1指導、②1年次後期～2年次(1.5カ年)のキャリア・スタディ・プログラム、③3年次の地域連携文化セミナー、④1年次末の全員短期海外研修(国際英語学科のみ)、⑤2年次以降の海外研修ならびに海外インターンシップ、⑥CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に準拠した Step-up English の導入(国際英語学科のみ)、⑦地元企業でのインターンシップ、⑧児童英語教員養成課程など）の細部を具体的に検討し、6月以降の募集活動において重点的に広報する。</li> <li>・オープンキャンパスにおいて参加型のイベントを増やすことにより女子高生の興味関心に応えるとともに、入学後の学修（キャリア・スタディ・プログラム）に結び付ける。特に、日本文化学科ならびに人間生活学部地域デザイン領域の出口（就職先・進路）を可視化するよう努める。</li> <li>・オープンセミナー入試の出願者数を各学科の定員の50%に近づける。</li> <li>・2018年度入学試験に外部評価（各種検定試験）を導入し、本学実施の試験科目の成績に対して加点または合格みなしを行うことにより新たな受験者層の獲得に努める。</li> </ul> <p>【人間生活学部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の派遣実績の1.5倍にアップ。</li> <li>・5月末までに①～⑧の項目を網羅した学部リーフレットを作成する。</li> <li>・7～8月期のオープンキャンパスにおける当該学科・領域のブース来場者数を毎回10名以上にする。</li> <li>・国際英語学科30名、日本文化学科20名、生活デザイン学科地域デザイン領域10名。</li> <li>・オープンセミナー入試を除く入学手続き者の5%程度。</li> </ul>	<p>9%弱アップしている。</p> <p>2018年度 86.0%      2017年度 77.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外留学（交換、在籍）、海外フィールドワーク、海外インターンシップ、国内フィールドワークに関する説明会を昨年度よりも早めに開催し学生への情報提供を徹底した。</li> <li>・辞退者が出た結果、応募者が0人になり、海外英語研修を閉講にした。平和学FWは、授業担当者の休職により、閉講とした。</li> <li>・現行の派遣実績の1.5倍にアップには至らなかった。</li> <li>・新学科の特長と、類似した系統の学部・学科を擁する他大学との差異を分かりやすく解説した資料を準備し、オープンキャンパスや高校での説明会などで配布している。</li> <li>・学部リーフレットの作成は、計画どおり、実施された。</li> <li>・GSEリーフレットを作成し、2018年度以後も引き続き、広報に活用できるようにした。</li> <li>・ブースの訪問者数は昨年度までと大差はないが、新学科ごとの説明会場ならびにイベント会場への来場者数は増加した。</li> <li>・12月のクリスマスオープンキャンパスでは、国際英語学科、日本文化学科ともに、来場者が15名を超えた。</li> <li>・2018年度クリスマスオープンキャンパス来場者数 国際英語学科 13名 日本文化学科 16名</li> <li>・2018年度オープンセミナー入試実績 国際英語学科 17名 日本文化学科 6名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスでのテロの影響があり、辞退者があった。</li> <li>・この状況を踏まえ、2018年度用の同意書に、一度応募した学生は、辞退ができないこと、海外研修を閉じるのは大学の判断によるという内容を加えた。</li> <li>・海外英語研修の費用が高いことが、応募所が集まらない一因として考えられるので、仲介業者の選定やその必要性も踏まえ、研修費用を低くする対策を講じる必要がある。</li> <li>・2019年度用大学案内やホームページ反映させる。</li> <li>・6月及び8～9月にかけて高校訪問を2度実施したが当初の目標値を達成することができなかった。オープンセミナー入試とAO入試の認知度と評価を高めるべくターゲット校を絞り込んで次年度の対策を練る。</li> </ul>
---	--	---	--

<p>○改組後の人間生活学部の入学定員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試広報、高校訪問、オープンキャンパスの質向上を図るためには、入試委員会、広報委員会、入試広報チーム、オープンキャンパス委員会と学科・学部が有機的に連携を深め、確実な情報共有と計画の実行がなされるようにする必要がある。この目標を達成するために上記の実情を洗い出し、連携強化を図る施策を策定し、確実な入学定員確保につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度早々に関係者で協議し、早急に改善を図る。生活デザイン学科 65名、管理栄養学科 70名、児童教育学科 90名を充足する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度においては、生活デザイン学科は定員 65名に対して目標値 71名、管理栄養学科は定員 70名に対して目標値 73名、児童教育学科は定員 90名に対して目標値 92名を掲げた。最終入学手続き締切日の 3月 26日を待たないと確定値は出ないが、少なくとも学部の定員 225名は充足できる見通しで、学部の目標値 236名も達成できそうな状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は 6月の全教員による高校訪問に加え、7月に 3学科独自の高校訪問、オープンキャンパスの企画の改善を行った。さらに管理栄養学科は 9月にも高校訪問を臨時に加えた。また、10月にホームページの本格的リニューアルを予定しているが、それに先立ち、少しでもタイムリーな内容にするため、9月 11日に入学志願者増に結び付くように一部改善をした。</li> <li>学科別にみると、児童教育学科が学科目標を達成できない可能性がある。2018年度は学部学科改組元年で、学科長、学部長もすべて変わる。2017年度は改組の内容を広報することに力を入れたが、2018年度はこれに加え、広報した内容に齟齬を来さないような教育を実施して高い評価を得ることが重要となる。そのためには大学が掲げたアドミッションポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを教職員全員で共有することを徹底し、実践する必要がある。そのためには内部質保証の制度に左記の取り組みを組み込むことが求められる。</li> </ul>
<p>○就職指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生とチューター、キャリアセンターとの連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部において実就職率 96%以上を堅持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年 3月 1日時点で学部の就職率は 93.3%、実就職率は 89.4%である。就職に関する最終集計は 5月 1日であるため、確定値を基に述べることはできないが、昨年同時期がそれぞれ 92.2%、91.0%であったことから最終的には目標値か目標値に近い実績となる見通しである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別にサポートが必要な学生には、チューターやキャリア支援課職員に遠慮せず相談に行くことを徹底するよう、教授会で教員に伝えている。</li> <li>次年度以降も引き続き内定率や実就職率で高い実績を維持するためには、就活をしているのに内定がもらえない学生は言うに及ばず、就活や自分のキャリア設計そのものに真摯に向き合っていない学生、あるいは就活で悩みがあるのにチューターやキャリア支援課に相談できないでいる学生にどう対応するかがポイントになる。キャリアセンター委員会と学科とのタイアップを今まで以上に強くする必要がある。</li> </ul>
<p>○退学者数の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活デザイン・建築学科は他の 2学科に比べて退学者数が多いので、チューターが中心となり、学科会で学生の動向の細かな把握と迅速な対応を行うように改善をする。また、健康管理センターやカウンセリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学科ともに 2017年度の退学者数を 2名以下に抑える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の退学者数は、生活デザイン・建築学科で 2名、管理栄養学科で 1名、幼児教育心理学科で 4名であった。生活デザイン・建築学科及び管理栄養学科は管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退学が決定するたびに退学理由を学科会、ならびに学部教授会で報告することで情報共有を図っている。退学理由はさまざまであるが、主なものと</li> </ul>

<p>ルーム、学生課、教務課との連携も強化する。</p> <p>【生活デザイン・建築学科】</p> <p>基本方針の企図を支えとし、主に地元において就業・居住（少数ではあるが大都市圏への就職等）を将来充実して展開しうる力の素を学科として授けうる女性大学一学科としての体制の整えの継続上、なおかつ、私立大学の多くが消滅時代に突入している今後 10 年を見据えての本大学存立策＝＜縮充しつつ持続再生・サバイバル（生き残り）＞戦略（ストラテジー）プロジェクトとしての 2018 年 4 月「新学部・学科開設」における新学科「生活デザイン学科」へ円滑に積極的・向上的に連動させる学科運営上、以下の 4 つの案件が主な学科重要事業計画となる。</p> <p>○新学科定員をかなり上回る確保へ向けての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質的に有益かつ量的に有効な入試制度の積極的アピールを強力維持現学科で実施してきた「オープンセミナー」という特色ある授業と結びついた入試制度は、生活系・家政系・生活科学系という分かりにくい現学科さらに新学科の、文系や理系と括りがたく学際的色合いを有する学科性格・学科内容を、数日間の具体的授業体験を通して理解できたうえでの志願選択を高校生等に提供できるゆえ、現学科・新学科においては重要な制度である。実際にこれまでの入学者の半数近くがこの制度を経ており、学科としてできる本制度アピールは今後の新学科定員確保への鍵のひとつとして維持・改善していく。（募集力の劣化がサバイバル度を必ず落とす。この劣化傾向からは絶対に脱出せねばならない。）</li> <li>・高校への出前授業等提供実施回数の現状以上堅持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンセミナー」を新学科体制の領域構造図式にもとづいて 4 つ開設し、それら受講体験の高校 3 年生等のうち約 40 名（新学科定員 65 名の半数以上）にいずれかの入試を通して新学科入学へ導く。</li> <li>・「オープンセミナー」アピールを学科としても独自広報する。これまでの経験上、そのために最低限 40 万円程度以上は学科経費からも配分する。</li> <li>・現在の学科教員において年度ひとり各 3 回以上提供する。</li> </ul>	<p>目標値（各学科とも 2 名）以下で収まったが、幼児教育心理学科では上回ってしまった。</p> <p>○新学科定員（65 名）をかなり上回る入学者確保となった。本学科入学者数 91 名で、取組は本年度については成功したと判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンセミナー」受講者 37 名、合格＝出願許可者 33 名、うち入試志願者（専願）33 名。この 33 名全員が入学手続きを済まし、新学科定員 65 名の半数以上を本方式にて獲得したいとする目標は達成できた。</li> <li>・今年度の「オープンセミナー」のためのアピールは、前年度末から必要であり、その時期から本年度の現時点までに、学科経費から 40 万円以上を支出済みにて目標値達成。来年度「オープンセミナー」アピール準備のための学科経費は、本年度内に 30 万円以上現時点では用い、順調にアピール準備を整えてきている。</li> <li>・本年度の終わりに近い 3 月 8 日現時点で、出前授業等の依頼 36 件受諾。現在の学科教員は特任の教員を除き</li> </ul>	<p>して学びのモチベーションの低下、健康問題、経済的問題などが挙げられる。退学につながる問題をより早く察知し、迅速に問題の解決・改善策を講じることが肝要である。そのためには授業への出席状況を教員、教務課及び学生課職員がこまめにチェックし、情報共有を図ること、機を得たチューター面談の実施、メールやラインなどを活用した気軽に相談ができる環境を十分に整備する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンセミナー」受講者における内訳は、 被服・ファッションデザイン：14 名 生活プロデュース（実質的内容はインテリアデザイン）＋インテリア・住居・建築デザイン：11 名＋7 名＝18 名 地域デザイン：5 名</li> <li>であり、当該入試志願者＝入学手続き者内訳は、 被服・ファッションデザイン：12 名 インテリア・住居・建築デザイン：16 名 地域デザイン：5 名</li> <li>であり、地域デザインのセミナーへの応募者獲得についてが新年度の課題である。この課題への今できる対策のひとつとして、新年度の地域デザイ</li> </ul>
--	---	---	--

<p>○教育力アップ＝学科学生満足度アップに直結する教育設備改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育力をアピールできてきた諸々のデザイン競技（コンペティション） 受賞の重なるよき成果を保持・継続する上で、作品制作上有効に機能している CP 環境のできるかぎり良好な保持が必要不可欠であるが、当該 CP と CP 諸ソフトが現在使用のものは（2011 年 8 月）導入から 5 年近くを経て、現在良好でなくなっている実態を改善する。（本年 3 月の 8 大学卒業設計展-2017 年「市民賞」受賞-・他コンペティション準備等までは なんとかやりくりして学生等・教員等をなぐさめつつのりきってきたが、使用限界にきている現状である。）</li> </ul> <p>○現学科 3 領域（ちなみに新学科は 4 領域）なりに可能な地域社会・地場企業等との協同活性的連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和ハウス工業株式会社との連携を遂行する（＜インテリア・住居・建築領域＞）。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社広島ドラゴンフライズとの地域振興プロジェクトを遂行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフィア 1 号館 6F の第 1 造形実習室設備のデザイン専用 CP・ソフトを遅くとも前期末の 8 月までにはすべて良好な状態にする。</li> <li>・新学科へ繋がる最低限必要な教育機器に関する現学科における改善（国内多種の諸デザインコンペティションへ学科学生により毎年度 10 件以上応募一年度内数件はこれまで必ず受賞等一継続の上でも肝要事）</li> <li>・「ダイワハウス子供部屋プロジェクト」を年度始めに着手し、関連実習授業等ともタイアップして、秋口に実施案決定後、年度内には着工・完成する。</li> <li>・「生活デザイン・建築学科地域振興デザインプロジェクト」の一貫として、プロジェクト提携を株式会社広島ドラゴンフライズ（地元のプロバスケットチーム）と結んでおり、本年度の特別セミナー授業等ともタイアップして、本年度前期中には本学科学生による提案グッズの実現へ至らせる。</li> </ul>	<p>7 名であるので、ひとり平均 5.14 回以上提供済み。新学科構成教員は特任の教員を除き 11 名であるので、その教員数で換算しても、ひとり平均 3.27 回以上提供済み。目標値を達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期末までにメンテナンス等を尽し終えたが、不良な設備（とりわけデザイン専用 CP・ソフト）は現機器のままでは適切な改善の域にまで届かないことが判明。学科独自の徹底的な現状調査等を経、学内コンセンサスを得る（稟議事項等を含む）手続きを経て、9 月の中旬（授業等に障害の生じないぎりぎりの時期）までに（全 28 台中）応急的に最低限（8 台）導入できた。</li> <li>・上記問題があり。また、ランバスホールの天井工事期間の影響のため、新学科へ繋がる最低限必要な「生活デザイン・建築学会室から被服・ファッションデザイン室への変更」（5 月 9 日の大学評議会に上程）に伴う同室改善に着手できない状態であり、現時点予測では年度内に改善全うできない。</li> <li>・広テレのバックアップもあり、子供部屋だけでなく 2 階全体の設計プロジェクトへ拡大展開し、「ダイワハウス×広島女学院大学 住宅コラボ PROJECT」として、着実に目標期間通り達成予定で進んでいる。経過報告及び現況は本学ホームページの現学科「学科ニュース（6 月 30 日付、7 月 5 日付、7 月 28 日付、等々継続アップ）」にて随時公開してきた。大和ハウス工業株式会社もテレビ CM 等により本プロジェクトを広告してくれており、高校訪問時にも大好評なことが判明した。8 月には本プロジェクトのなかの学生コンペ実施パンフレットが大和ハウス工業株式会社の支出により制作され、広報された。目標達成中。</li> <li>・目標達成。詳細については「HDF×HJU 地域振興デザインプロジェクト」として、本学ホームページの現学科「学科ニュース（4 月 5 日付、4 月 11 日付、4 月 18 日付、5 月 13 日付、等々継続アップ）」にて公開中。今年度後期以降も継続が決定し、新年度も継続予定で進</li> </ul>	<p>ンのセミナーの名称を変更することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（全 28 台中の）8 台のみ緊急措置として新規導入できたものの、なお改善には不十分であることが課題であり、対策として来年度へ向けて今年度内に残る 20 台刷新等の要望文書提出した。</li> <li>・ランバスホールの天井工事完了を受け、新年度には「被服・ファッションデザイン室」の整えに着手できる見通しである。</li> <li>・住宅が着工・完成した後、住宅に関する報告が、新年度に入ってから広報の目玉のひとつとなる予定である。</li> </ul>
--	--	--	--

<p>○現学科 3 領域関連デザイン実践支援及び 3 領域関連資格取得等支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公民館等への出前授業提供実施数の現状以上堅持する。</li> <li>・「住宅・建築業界ガイダンス」を実施する。</li> <li>・「宅建ガイダンス」を実施する。</li> <li>・「二級建築士資格対策講座」を実施する。</li> </ul> <p>・「カラーコーディネーター検定ガイダンス」を実施する。</p> <p>・「家庭科教職課程勉強会」を実施する。</p> <p>・「チャレンジ活動支援」を実施する。</p> <p><b>【管理栄養学科】</b></p> <p>○指導内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の基礎知識の底上げと学習意欲向上 専門科目を学ぶために必要な基礎科目を設置し、指導内容の充実を図る。学科の低学年科目として、専任教員が複数で「生物」「化学」の授業を担当する。</li> </ul> <p>・実践力の向上を目的として、地域住民や行政、団体と連携した指導内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外フィールドワーク、地域連携食育セミナー、災害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度 3 度以上提供する。</li> <li>・半期に各 1 回開催する。</li> <li>・半期に各 1 回開催する。</li> <li>・年度内 2 ヶ月間内に集中して週 1 回開催する。</li> <li>・半期に各 1 回開催する。</li> <li>・毎月 2～3 回開催する。</li> <li>・年度内デザインプロジェクト展開（5 プロジェクト程度）を学科内学会である生活デザイン・建築学会において指導及び資金援助する</li> <li>・授業評価アンケート結果「総合的に授業に満足した」割合の増加、高値維持 ※参考 全体（「強く思う」 2016 年度 39.8%、2015 年 47.5%） 化学（2016 年度「強く思う」 31.6%） 生物学入門（2015 年度「強く思う」 58.7%）</li> <li>・授業評価アンケート結果「総合的に授業に満足した」割合の高値維持</li> <li>災害支援実践セミナー（2016 年度「強く思う」 100%）</li> <li>地域連携食育セミナー（2016 年度「強く思う」</li> </ul>	<p>む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初期には予定していなかった次のものが加わる。 「女性向け農作業着の新商品開発プロジェクトーアトムワークス×広島女学院大学一」が 6 月から、株式会社アトムワークスが展開する女性向け農作業着ブランド『nomodo』の新商品を、本学科と同社共同にて開発し実用化を目指すプロジェクトを始動。「学科ニュース（12 月 26 日付）」にて公開中。今後、新年度の春・秋を目標に実用化され、全国販売予定であり、新学科アピールの広報を強化してくれる素材のひとつが加わる。</li> <li>・新学科構成員を含めることによって、10 月に 3 度を達成。</li> <li>・4 月 5 日実施。9 月 20 日実施。</li> <li>・4 月 5 日実施。9 月 20 日実施。</li> <li>・7 月 5 日、9 月 27 日実施（以降の 2 ヶ月間内に集中して週 1 回実施予定表を建築士課程学生へ配布済み）。</li> <li>・春学期は未開催。</li> <li>・4 月 8 日、4 月 26 日、5 月 29 日、6 月 3 日、6 月 26 日、6 月 30 日開催。</li> <li>・本年度は 4 プロジェクト採用（他に 1 プロジェクトの申請があり、当初は 5 プロジェクトであったが、当該 1 プロジェクトは不適切として不採用と審査する）。</li> <li>・「公務員(建築職)ガイダンス」が予定していなかったが、新たに加わる。4 月 5 日実施。</li> <li>・化学および生物学入門は専任教員各 2 名がオムニバスで実施した。2017 年度春学期授業評価アンケート結果における「総合的に授業に満足した」割合については、「強く思う」と回答した割合が化学では 32%、生物学入門では 45%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ガイダンス実施予定のヴィジュアルデザイン系専任教員が欠員のため、これに替わるガイダンスを「カラーコーディネート演習」等（非常勤講師の柏尾浩一郎先生（「色彩生活コーポレーション株式会社」代表取締役）ご担当）の新学科開講通常授業内に含める準備を進めている。</li> <li>・全体では「強く思う」と回答した割合が 37%であったため、その他の項目の分析を行い、学生の理解が深まる方法をさらに検討する必要がある。</li> </ul>
--	--	--	--

<p>支援実践セミナー、総合演習等の授業科目を複数の教員が担当する。</p> <p>○なりたい自分を見つける支援・指導体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理栄養士国家試験受験対策の継続的な支援を行う。模擬試験を11回実施する。教員の模試後の面談を実施する。</li> <li>就職への継続的な支援を行う。</li> <li>低学年からアイリス食の会や卒業生との交流の場を設定する。</li> <li>キャリアセンターと連携を図り、セミナーを実施する。</li> <li>アイリス食の会との連携を図る</li> </ul>	<p>85.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理栄養士国家試験受験希望者 100%合格</li> <li>管理栄養士国家試験受験資格保有者の国家試験受験辞退者を 5%未満</li> <li>実就職率 100%</li> <li>退学者・休学者の減少、低値維持 (2016年度 退学者 1名、休学者 0名)</li> <li>資格を活かした就職者率向上(2015年度 管理栄養士・栄養士として就職した割合 86%)</li> <li>卒業生アンケート結果「めざす資格が取得できる」割合の高値維持 ※参考 全体(2015年度「とても満足している」46%) 学科(2015年度「とても満足している」78%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外フィールドワーク、地域連携食育セミナー、総合演習Ⅰ・Ⅱの授業科目を複数の教員が担当し、各学生の課題に応じた指導を行うことができた。</li> <li>災害実践セミナーは受講者数が定員を満たさなかったため、閉講となった。</li> <li>産学官連携事業として、安芸太田町の産物とカゴメ商品を使用したメニュー開発を行った。9月15日、カゴメトマトキッチンスタジオで18名の1～3年の学生がメニューを提案した。10月28・29日にはフードフェスティバルのカゴメブースにおいて、開発した商品を販売し、レシピ配布を行った。</li> <li>地域連携食育セミナーは3名の教員が共同で担当し、2017年度春学期授業評価アンケート結果における「総合的に授業に満足した」については、「強くそう思う」と回答した割合が62%であった。秋学期授業評価アンケート結果における「総合的に授業に満足した」については、「強くそう思う」と回答した割合が100%であった。</li> <li>海外フィールドワークは、2年生5名、1年生3名が参加して、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島を研修先として2月20日～28日に実施することができた。</li> <li>3月4日に国家試験が実施され、56名が受験し55名が合格した。合格率は98.2%であり、広島県内私立大学で第2位、女子大学では第1位であった。</li> <li>年間模試を11回実施し、ボーダーラインを設定し、満たない学生に対して、教員面談を行った。辞退者は57名中1名だった(2%)。</li> <li>キャリアセンターと連携を図り、学科独自のセミナーを実施した。8月から総合演習Ⅰおよび臨地実習ガイダンスにおいて、キャリアカウンセラーを講師として、セミナーを実施した。臨地実習後の12月～1月に少人数のクラスを設定し、実習の振り返りを通して、今後の就職に向けて取り組む支援を行った。</li> <li>退学者 1名、休学者 4名(春学期2名、うち1名は卒業延期のため、春学期受講科目なし、秋学期3名)</li> <li>アイリス食の会の20周年を記念した式典を開催し、記念講演会を管理栄養学会と合同開催とした(6/17)。ま</li> </ul>	<p>資格取得に向けた国家試験受験対策、および就職に対する意識の高揚への支援を継続的に行う必要がある。</p> <p>・休学者の増加がみられるため、入学時からチューターによる丁寧な個別対応が必須である。</p>
--	--	--	---

<p>○学生募集の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校の見直しを行う。</li> <li>・公募制推薦入試の試験内容の見直しを行う。</li> <li>・入試形態別の学生の動向を検証する。</li> </ul> <p>【幼児教育心理学科】</p> <p>○アクティブラーニングの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもチャレンジ・ラボ」の立ち上げ</li> </ul> <p>従来、個々に活動してきた研究会を「子どもチャレンジ・ラボ」として組織化し、地域協働型、課題解決型学習のプログラム開発、および学生の学習支援を行う。</p> <p>○就職支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職サポートセンターの立ち上げ</li> </ul> <p>2018年度に向け、教員採用試験対策、模擬授業、教職課程履修相談等を行う。当面は、学科内で試行し、2018年度以降、正式な発足を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育士採用試験のサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員 100%確保</li> </ul> <p>・学科学生の 50%が子どもチャレンジ・ラボの活動に参加することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県・市教育職員採用試験合格率 75%以上を目標とする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度の合格者数(4名)以上の合格を目標とする。</li> </ul>	<p>た、キャリアプランニングにアイリス食の会の代表ならびに運営委員を講師として招聘した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生アンケート結果「めざす資格が取得できる」割合の高値維持</li> </ul> <p>※参考 全体(2016年度「とても満足している」46%) 学科(2016年度「とても満足している」73%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試の過去問が一部しか公表されていなかったため、入試形態を広く認知してもらうことを目的に問題及び解答のポイントを大学入試問題集に掲載することとした。また、オープンキャンパスにおいて対策講座を実施した。</li> <li>・公募制推薦入試については、1回目C方式の試験内容を小論文から理科基礎学力試験に変更した。また、新規に松山、松江の地方入試を実施することとした。あわせて、学科独自で7月末から8月にかけて、前半型入試のための高校訪問を愛媛県、島根県を中心に実施した。</li> <li>・AO入試において、受験者が目標人数に達しなかった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションキャンプ、幼心学会総会を通じて、子どもチャレンジ・ラボの活動を新入生に周知し、積極的な参加を促進した。参加率の調査は秋学期に実施する予定である。地域協働型、課題解決型学習の効果検証とプログラム開発を推進するため、山下教授を研究代表者として広島女学院大学学術研究助成に共同研究を申請し採択された。</li> <li>・学科学生の子どもチャレンジ・ラボへの参加率は、77.3%であり目標値を達成した。このうち、6割の学生は複数の活動に参加していた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県・市教育職員採用一次試験において、13名中12名が合格した(卒業生5名中5名合格、在学生8名中7名合格、合格率92.3%)。</li> <li>・広島県・市教育職員採用二次試験において、12名中9名が合格した。(卒業生5名中3名、在学生7名中6名、合格率75%)</li> <li>・受験者全体に対する合格率は69.2%、卒業生60%、在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す資格取得として目標が設定できるよう、支援体制を強化する必要がある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試については、現在2日間で実施している試験内容の精選を検討し、2019年度入試からは1日で実施することとした。併せてOS入試の導入を決定した。</li> <li>・外部試験の導入については、公募推薦において行うこととした。</li> <li>・多様な入試の特徴への理解を促すため、HP等を用いた広報活動を強化する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別の参加率では、1年生69.4%、2年生62.3%、3年生91.1%、4年生が84.7%であった。今後は、1、2年生の参加率を向上させることを目標とする。また、引き続き質問紙調査の結果を分析し、地域共同型、課題解決型学習の効果検証を進めたい。</li> <li>・在学生の合格率は目標を達成したが、卒業生を含めた全体数ではわずかに及ばなかった。</li> <li>・2018年度に向けて、二次試験対策の充実を図り、学科教員並びにキャリアセンターとの連携によって面接練習の回数を増加させる。</li> <li>・県・市教委がそれぞれ実施する広島県教師養成塾およびひろしま未来教師セミナーへの参加者を積極的に募ることにより、学生が県・市教委が求める教師像について理解を深めるようにするとともに、県・市教委との連携を強化する。</li> </ul>
---	---	---	---

<p>公立保育士採用試験の専門教育対策、実技（ピアノ）試験対策を実施する。</p> <p>○英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修モデルの作成、サポート体制の構築</li> </ul> <p>2018 年度に向けて、国際英語学科と連携し、児童教育学科学生のための正課、課外における履修モデルを作成する。</p> <p>【言語文化研究科】</p> <p>○質の高い論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文作成の手続きを明確化する <ul style="list-style-type: none"> <li>①研究倫理説明会を開く。</li> <li>②2017 年度版修士論文作成の手引きを学生に配布する。</li> <li>③研究中間発表会を開く。</li> <li>④学生に論文計画（指導計画を含む）を提出させる。</li> <li>⑤研究中間発表会後に、論文計画と論文審査基準到達度をチェックする。</li> <li>⑥論文提出前に予備審査を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修モデルを完成させる。(100%)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>年に1回、春のオリエンテーション時に研究倫理説明会を行う。</li> <li>新学期の早い時期に 2017 年度版修士論文作成の手引きを学生に配布する。言語文化研究科オリジナルサイトにアップロードし、インターネットが繋がっている環境化でも電子版を閲覧できるようにする。</li> <li>春季と秋季の2回研究中間発表会を開く。</li> <li>1年次10月と2年次4月の2回、論文計画を提出させる。論文計画書は、教員側が作成する指導計画を記入する。学生と教員が共に計画を確認しながら研究を進めていく体制を強化する。計画書は、教務課に提出させ、計画（指導計画）を行っているという実態を可視化。</li> <li>指導教員と共に行う論文審査基準到達度チェックは、1年次の秋に1回、2年次の春に1回行う。各段階で教員、学生が共に、到達度を確認し、計画を見直す。</li> </ul>	<p>学生は 75%である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来の専門業者による公務員対策講座とは別に、専門教養に関する対策講座を学科教員 5 名で初めて企画した。9 月までに全 12 回の講座を実施し 18 名が受講した。また、1 次試験合格者を対象とする小論文及びピアノ・歌唱実技の個別指導を実施した。6 月末に実施した模擬試験では、専門試験平均点が向上した。(全国平均 18.2 点に対し学内平均 23.2 点)</li> <li>広島市 2 名、福山市 1 名、呉市 1 名、東広島市 2 名、三原市 1 名、静岡市 1 名の計 8 名が公務員試験（保育士・幼稚園教諭）に合格し、前年度に対し 200%の合格者数を達成した。</li> <li>入学前プログラムにおける英語課題、児童教育基礎セミナーにおける児童英語の導入、オリエンテーションでの児童英語教員の資格説明等を決定し、履修モデルを完成させた。</li> <li>広島女学院大学学術研究助成より、英語の絵本 29 冊を購入し、教材を充実させた。</li> <li>新 ME の語彙の選定、専門用語の日本語訳の校正に協力した。</li> <li>4 月のオリエンテーション時に研究倫理説明会を開催した。プリントと ppt を使って説明を行った。</li> <li>4 月のオリエンテーション時に 2017 年版修士論文作成の手引きを学生に配布した。</li> <li>6 月に第 1 回目の中間発表会を開催した。</li> <li>2 年次の 4 月に研究計画書(指導教員の指導計画書つき)を提出させた。</li> <li>中間発表会の際に、チェックリストを配布し、発表会終了後、各ゼミの時間に学生と教員で振り返りを行うよう要請した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合格者のうち 2 名は有料の公務員講座を受講せず、学科教員による対策講座のみを受講していた。経済的理由等から有料講座を受講しないが、公務員を志望している学生に対し、学科としてサポートすることができたので、次年度も学科教員による講座を継続したい。</li> <li>正課や海外研修については、幼児教育心理学科教員での取組に限界があるため、基礎英語担当者を児童教育学科に配置することを切望する。</li> <li>適切に対応した。</li> <li>適切に対応した。</li> <li>適切に対応した。</li> <li>適切に対応した。全員提出した。</li> <li>実際に各ゼミで行ったかどうかの確認は不可能。年度末にアンケートを実施し、実施状況を確認する。</li> <li>適切に対応した。</li> </ul>
---	---	--	--

<p>○自己点検・評価システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価システムを構築する。</li> </ul> <p>【人間生活学研究科】</p> <p>○定員充足率の改善に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在学生には従来以上に大学院進学への広報を行うとともに、他大学や社会人に対しては大学院志願を促す広報をHPを中心に強化する。</li> </ul> <p>○修士課程修了予定者の進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導教員を中心に学生とのコミュニケーションを強化し、かつキャリア支援課との連携も深め、本人の希望に沿った進路指導を行う。</li> </ul> <p>○修了延期者をなくす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度は、修了延期することなく修士2年生(2名)を確実に修了できるよう指導の徹底を図る。このため、研究科委員会で毎月進捗管理を行い、問題があれば早期に把握し、対応策を打つようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文を提出する年度にあらかじめ予備審査を行う。(主査1名、副査2名)</li> <li>言語文化研究科の自己点検システムを構築するために、2017年度中に、言語文化研究科用自己点検・評価マニュアルを作成する。</li> <li>2018年度修士課程への入学者2名以上を目指す。</li> <li>2017年度の対象となる学生2名全員が希望分野へ就職できるように支援する。</li> <li>2017年度の修士2年生の修了延期をなくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月初旬までに予備審査を終えた。修士論提出有資格者は、全員予備審査を通過した。12月13日の研究科委員会でその旨報告を行った。</li> <li>言語文化研究科自己点検マニュアル(暫定版)を作成した。制定日は、研究科委員会が行われた2017年10月11日とした。</li> <li>前回の報告(執行状況)で挙げた広報などの取り組みに力を入れたが、2018年度の入学者はいなかった。</li> <li>本年度は生活科学専攻の修了者が1名であり、当初より病院の管理栄養士として臨床栄養分野で働く希望を持っていた。研究指導教員、研究指導補助教員が中心となって、本人の希望をふまえつつ就活を進め、県内の中規模病院に管理栄養士として就職することが決定した。なお、2名のうちの残る1名は修了延期となっている(下記)。</li> <li>修了延期者が1名在籍しており、当該学生は病気の状況が思わしくなく、登校できない状態にある。研究科委員会において学生の状況は定期的に把握しつつ、指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアルは、研究科委員会で審議資料して配布したが、その後、教員が自由に閲覧できる形が整っていない。Web閲覧(アクセス制限つき)など何らかの方法で必要に応じ閲覧できるようにする。</li> <li>学内の在校生に向けて、特別推薦入試の制度を中心に説明会開催、パンフレットの配布を行ったが、近隣の国公立大学大学院が募集定員の充足に躍起になり、結果的にかなり広き門となっている現状がある。本学は国公立大に比して、授業料、ネームブランド両面でハンディを負っているため学生募集は非常に厳しい。さらに就職求人が好調なためあえて大学院進学を目指す機運も低調である。思い切った授業料の減免制度、あるいは奨学金制度などを創設すれば状況は変わるかもしれないが、大学の財政状況を考慮すると非常に難しいといえる。</li> <li>大学院生に対しても学部学生と同様にキャリア支援課を中心としたシステムティックな就活指導体制が整備されていることが望ましいが、本学の現状と、大学院生がそれぞれの専門分野に特化した就職先を求めていることを勘案すると非常に難しい。当面は指導教員が中心となって本人とコミュニケーションを密にしつつ、就活を進めていくのが次善かつ現実的な対応であろう。</li> <li>今年度より、月に一度開催される研究会委員会において、指導教員が学生の状況を報告することを毎回議題に挙げることであり、教員間で情報共有ができ、かつ必要に応じ協議できる仕組みを整備した。</li> <li>本人の健康の問題を解決することは難しい。でき</li> </ul>
---	--	---	---

<p>【キリスト教教育】</p> <p>○「キリスト教の時間」のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神共有の場としての位置付け、また、「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」に密接に関係する教育プログラムとしての位置づけをより明確にする。</li> <li>「キリスト教の時間」の位置付けについて、学生および教職員に広く理解の共有と出席を働きかける。2016年度も行ったポスター掲示による宣伝をさらに充実させる。「チャペルだより」配布と、「キリスト教入門」その他の授業での活用。大学評議会や部局長会を通してのプログラムの位置付けの説明。加えて、プログラム内容についての学生、教職員からのフィードバックに基づく効果の検証。</li> <li>・上記に関連して、学生の内面的成長に益する講話のため、多様で幅広い講師を迎える。</li> </ul> <p>宗教委員会において精査した講師の招聘。「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」と講話内容の関連性の明確化。</p> <p>①聖書が内包する豊かなメッセージを、学生の現状・ニーズに合わせて語って下さる牧師・キリスト者など。</p> <p>②平和・人権・国際・女性に関する諸活動において、顕著な働きをしておられる様々な方。</p> <p>③上記に関してとくに、社会的に広く意義が認められる活動をしておられる卒業生。</p> <p>上記3項目にあてはまる講師を多様に幅広く迎えるほか、各学期に一度は学生による発表の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴く」姿勢づくり、初年次からの本学らしいマナー教育の場とする。また、傾聴を通しての人格形成および多様で豊かなキャリア観形成の場とする。</li> </ul> <p>丁寧な説明に基づく納得感を伴った、私語と居眠りの根絶。</p> <p>○「木曜日チャペル」のさらなる充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の出席率アップ：2016年度秋学期平均 80.2%⇒2017年度目標 85%、教職員の出席率倍増：平均 15名</li> <li>・教職員アンケートの実施：秋学期に年間の振り返りとして行う。</li> <li>・学生アンケートの実施：秋学期に秋学期に年間の振り返りとして行う。</li> </ul>	<p>導教員からも連絡を取り合う努力はしてきたが、結果的には10月以降、殆ど状況は改善されていない。</p> <p>&lt;春学期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度春学期 1年生の出席率平均：92.2%</li> <li>同 教職員の出席数平均：12名</li> </ul> <p>&lt;秋学期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度秋学期 1年生の出席率平均：79.0%</li> <li>同 教職員の出席数平均：11名</li> </ul> <p>&lt;通年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度 1年生の出席平均 85.6%</li> <li>同 教職員の出席数平均：11.5名</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケートについて、今年度は、予備的に前田宗教主任の担当クラス（キリスト教入門Ⅰ：国際教養の半数および幼児教育心理学科）にて実施した。キリスト教教育の目的とするところに対して一定の効果があったことが確認できたとともに、アンケートの本格実施にむけて設問そのものの精査も行った。</li> <li>・教職員アンケートは実施に至らなかった。</li> <li>・チャペルだよりに掲載のとおり、多彩な講師を招聘し、豊かな講演を賜った。毎回の出席カード裏面に学生が記入するコメントが例年の2倍～3倍にのぼり、関心の高さが浮き彫りになった。</li> <li>・秋学期の「キリスト教の時間」をアセンブリーホールで実施したことについては、混乱を懸念したが、多方面や出席学生からのご協力により、問題は生じなかった。</li> <li>・「キリスト教の時間」において、各学期に1度ずつ学生活動発表会を行った。秋学期には幼児教育心理学科1年生による「こどもさんびか」発表会を、ゲーンズ幼稚園の園児を招いて行った。</li> <li>・最初の段階で納得感や自発性を喚起するように丁寧な</li> </ul>	<p>るだけ状況が把握できるよう連絡を取り合いしつつ、必要なら休学を勧めることも視野に入れた対応を行うこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度春学期に関しては、学生の出席率は昨年度の通年平均を大きく上回り、目標を大幅に超える結果となった。一方で、秋学期については昨年度より微減であった。しかし、通年としては目標である85%を達成した。慣れのためか後半回の出席率が悪化する傾向にあるため、宗教委員会で対策を協議したい。教職員の出席については、教授会等の折にふれご協力を呼びかけたことに応えていただき、昨年度を大きく上回ったが、目標には到達しなかったため、引き続きご協力を呼びかけたい。</li> <li>・宗教委員会で、ルーブリック評価との連携についてご提言いただいたことを踏まえ、新年度の授業設計にアンケートを組み込むこととした。</li> <li>・新年度は、よりコメントの記入をしやすいような声掛けを行う。また、コメント内容について、学内の教員による研究グループがテキストマイニングの手法を用いた研究を行っており、「キリスト教の時間」の教育効果が客観的に実証されつつある。</li> </ul> <p>2018年9月に本学で開催のキリスト教学校教育同盟関西地区大学部会研究集会で発表予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋学期に向けて生じていく「慣れ」を克服し、良いマナーを継続できるよう、新年度も細やかに指導したい。</li> </ul>
--	---	---	--

<p>・従来どおり教職員・学生による多様な発表の場であることは維持しつつ、発表者には発表内容と聖書やキリスト教とのかかわりについて触れていただくことによって、学校礼拝としての位置づけをより明確にすることを旨とする。</p> <p>講話の関連聖句を話者に選んでいただく。難しい場合は宗教主任が選び、話者に丁寧に説明を行う。</p> <p>・「木曜日チャペル」の学内での位置付けの明確化</p> <p>2016 年度も行ったポスター掲示による宣伝をさらに充実させる。</p> <p>○カルト対策</p> <p>・カルトおよびその対策に関する情報収集を強化する。</p> <p>・学生および教職員への有効な情報提供を行う。</p> <p>・他大学との連携において本学がリード役を担う。</p> <p>従来どおり、「キリスト教の時間」に専門家を講師として招聘し、同日に他大学の担当者に呼びかけ、カルト対策のための情報交換会を開催する。</p> <p><b>【教育課程・教育成果】</b></p> <p>・3つのポリシーのうち、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを見直し、教員全体への更なる定着をはかる</p> <p>・現行並びに 2018 新学科体制の3つのポリシーに関するFD研修会を実施する。</p> <p>○現行並びに 2018 カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの見直し</p> <p>・学務委員会において、各学科にカリキュラム体系の点検・見直しのためのカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの見直しを依頼する。2018 年度にスタートする予定のカリキュラムについても一旦作成したマップ、ツリーについての見直しを行う。</p> <p>○シラバスの見直し、シラバス入力状況の改善</p> <p>・他大学のシラバス様式を調査・収集し、本学にも導入すべき項目がないかを調べ、改善できる点があれば導入する。</p>	<p>・2016 年度秋学期平均 学生 20 名・教職員 13 名⇒2017 年度目標 学生 25 名・教職員 15 名。</p> <p>・2017 年度春学期に、講演と情報交換会をそれぞれ 1 回行う。</p> <p>・最低 1 回は実施する。</p> <p>・学務委員会において、現行並びに新学科に関するプレゼンテーションを依頼する。</p> <p>・教務課から学務委員会に調査内容を報告し、改善に関する検討を行う。</p> <p>・学務委員会において 2015 年度から継続して議論して</p>	<p>説明を心がけたこともあり、概ね着席マナー、受講マナーに関しては良好であった。</p> <p>・2017 年度春学期 学生出席数平均：22 名 教職員出席数平均：13 名</p> <p>・2018 年度秋学期 学生出席数平均：24 名 教職員出席数平均：14 名</p> <p>事務職員については、事務協議会を通じて、話者を輪番制とするよう協力をいただいた。</p> <p>・生活デザイン・建築学科の学生がひな形を作成してくれたポスターは好評であった。</p> <p>・例年のとおり、中部学院宗教総主事、高木総平先生をお招きし、「キリスト教の時間」における学生向け講演を行った。続けて、県下の大学に呼びかけて「カルト対策情報交換会」を行い、広島大学、広島修道大学、エリザベト音楽大学、広島国際大学、広島経済大学、比治山大学、広島県庁、広島県警察、および本学から合計 22 名の参加があり、活発な情報交換が行われた。</p> <p>・内部質保障委員会にて実施済み。</p> <p>・FD研修会を実施できなかった。</p> <p>・新学科代表者にワークショップに関する提案を行ったが、実施には時期尚早としてプレゼンテーションを行うまでには至らなかった。</p>	<p>・学生および教職員の出席数の平均は目標にほぼ到達した。とくに学生オルガニストコンサートは学生 70 名、教職員 18 名の出席を得た。続けて協力を呼びかけたい。</p> <p>・効果の検証が必要と思われる。</p> <p>・次年度も継続して行いたい。</p> <p>・新年度前期終了時に、再度見直しを予定。</p> <p>・新年度に実施予定。</p> <p>・新旧合同の学務委員会（3 月 20 日開催予定）において、新年度の学務委員会でのプレゼンテーションを新委員の先生方に依頼する。</p>
--	--	--	--

<p>・各授業においてシラバスをどのように活用しているかの調査を実施する。</p> <p>○成績評価の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック評価の定着と改善を行う。</li> </ul> <p>・2018年度から成績評価をGPA評価に一本化するにあたり、GPA評価の特徴を生かした運用の導入について大学の方針を確定させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA評価に対応した成績評価のあり方について、教員への意識改革を促す。</li> </ul> <p>○授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善（アクティブラーニング含む）に関する研究を行う。</li> <li>・各種セミナー、研究会等に複数の教職員が参加し情報収集するとともに、その情報を全教員が共有できるような仕組み作りを検討する。</li> </ul> <p>・FD研修会を実施する。（GPA評価、アクティブラーニング、等）</p> <p>○2018年度新カリキュラム導入への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教育委員会、学務委員会、教務課において、現体制から新体制に移行するための準備項目、人員配置、作業分担、経過報告等を行う。</li> </ul>	<p>きた内容をまとめ、全教員に提示できるように準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学務委員会において「成績評価ガイドライン」を作成する。</li> <li>・全教員に「成績評価ガイドライン」を配布する。</li> </ul> <p>・最低1回はグループワーク形式のFD研修会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学改革総合支援事業調査項目等から、2018年度シラバスに「課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法」という項目を追加した。</li> <li>・2017年7月、アンケートシステムを利用して、専任と非常勤221名に「シラバス・ルーブリックの作成と運用に関する調査」を実施。</li> <li>・シラバス様式の中にルーブリック評価を作成する欄を設けるように改善した結果、だれでも閲覧できるようになった。</li> <li>・10段階評価での「成績評価ガイドライン」を作成し「新教務関係資料003号」「カリキュラムブック」に掲載済みである。2018年度からGPA評価に一本化されることから、GPA評価における成績評価基準を策定した。</li> <li>・実施しなかった。</li> <li>・2017年9月2日(土)教育ネットワーク中国第2回研修会「大学入試改革とアクティブラーニング」 教員1名、入試課4名、秘書広報課1名、教務課1名</li> <li>・2017年9月8日(金)教育ネットワーク中国第3回研修会「アクティブ・ラーニングの効果検証」 教員2名、教務課1名</li> <li>・2018年3月5日(月)教育ネットワーク中国6回研修会・比治山大学・短期大学部「平成29年度AP2回セミナー」共催「ルーブリックの効果的な活用法」 教員5名、教務課4名参加。</li> <li>・2018年3月8日(木)教育ネットワーク中国5回研修会・県立広島大学教育フォーラム共催「アクティブ・ラーナー育成の課題と展望～高大接続時代を迎えて～」 教務課2名参加。</li> <li>・FD委員会で夏季休業中の研修会を企画したが、講師の都合で秋学期(11月29日(水))に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・221名中75名回答（回答率33%）督促1回</li> <li>・ルーブリック評価作成と運用に関する定着については引き続き教員への働きかけを行う。</li> <li>・GPA評価の一本化や成績評価基準の明示は、成績評価の公平性の担保や厳格化が目的であるが、最終的には「卒業の質保証」にも重要であることを全教員と共有する機会を検討する。</li> <li>・新年度に実施予定。</li> <li>・ほとんどの教員は、研修会の案内をしても反応が芳しくないため、積極的に参加できる環境を作ることが急務である。また、教員が主体的にアクティブ・ラーニングに関わるための情報収集（研修や調査、書籍）・研究・学内への啓蒙実践を主導するチームの編成などが望まれる。</li> <li>・基礎編として初歩的な内容を選択したため、引き続き実践的な内容の研修が望まれる。</li> </ul>
---	--	---	---

<p>【学生募集・入試制度】</p> <p>○高校訪問の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組に向けた広報</li> </ul> <p>○オープンキャンパスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携を視野に入れた高校訪問</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組に向けた「ライフキャリア」イベントの追加</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生スタッフの組織化</li> </ul> <p>○入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試の改革</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校推薦入試における指定校の拡充</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部試験の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試広報チームとの連携で訪問校や訪問時期を検討していく。すでに2016年度3月のオープンキャンパスに向けた訪問を行なった。例年では6月初旬から始まる訪問を入試広報チームでは5月から開始し、入試課員の訪問も連動して時期を検討する</li> <li>・高大連携に関わる提案型の高校訪問（中堅校・多様校）を展開する</li> <li>・夏に行なう5回のオープンキャンパスでは、昨年同様、毎回テーマを設け各回の特色を打ち出す。また、プログラムでは全体会、学科イベント、サロン・ド・ミナト、保護者プログラム、入試、個別相談ブースに加え、改組の中で学びの基礎となる「ライフキャリア」に関するイベントを追加する</li> <li>・従来はそれぞれのオープンキャンパスに向けて随時学生スタッフを募集していたが、できれば骨格となる学生10名以上で学生スタッフの会を組織化し、オープンキャンパスの充実だけでなく、学生スタッフの資質の向上を図る</li> <li>・管理栄養学科を除き、これまで9月の日曜日で2日間かけて行なってきたAO入試を1日で行ない志願者の増加を見込む</li> <li>・国際英語学科、日本文化学科、生活デザイン学科においては、沖縄県の糸満高校を初めとする20校を、管理栄養学科においては、広島県の近畿大学附属高校東広島校、福山校の2校を追加する</li> <li>・公募制推薦入試や一般入試の一部で実用英語技能検定や日本漢字能力検定などの外部試験の結果をみなし・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年8月5日(日)共通教育部門の運営に関する協議 山下(現部門長)、下岡(次期部門長)、入江(教務課長)</li> <li>・新カリキュラム導入に関する「準備チェックリスト」を作成し、新体制への準備を実施中である。</li> <li>・共通教育部門所属予定教員と基礎科目責任者・補助者、次期部門長が2018年1月5日、2月8日、2月23日に2018年度以降の体制に関する協議を行った。</li> <li>・改組に向けた広報として、各学科に担当校を振り分け、教員全員で、原則6月中旬までに高校訪問を行なった。これに先立ち、学内において、進研アドによる高校訪問の手順の確認や面談の予行演習の会を開催した。また、9月にも指定校推薦や公募制推薦などの前半型の入試に向けての高校訪問を50校行なった。</li> <li>・進徳女子高校と提携を取り交わし、実務レベルの高大連携を展開していく状況である。また、2018年度に向けて、広島国際学院高校、山陽女学園高等部との高大連携を検討していくこととなっている。</li> <li>・各回のオープンキャンパスにおいて、ヒノハラホール1Fのオープンスペースで、「Google Womenwill 未来の働き方アカデミー」をはじめ、「ライフキャリア」イベントのコーナーを広く設けた。</li> <li>・オープンキャンパスの学生スタッフの資質の向上に向けて、オープンキャンパス開催前に、リクルートによるトレーニングを行なった。</li> <li>・管理栄養学科を除く各学科において、入試日を9月最終週の日曜日に設定し、広報活動を行なっている。</li> <li>・左記のとおり、指定校推薦入試における指定校の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学共通科目に関するPDCAサイクルの報告と検討を行う年間予定を策定した。</li> <li>・新年度前期中に、定期的に経過観察を行い、新カリキュラム導入に伴う課題を発見し、解決策を検討する。</li> <li>・11月以降、一般入試やセンター利用入試に向けて、さらなる高校訪問や広報活動などを検討していくこととなり、52校の訪問を行なった。</li> <li>・具体的な手順やコンテンツの準備について、双方で検討していく段階にある。</li> <li>・改組の基礎の一つである「ライフキャリア教育」に関して、その具体的なイメージを広く周知徹底していく必要がある。</li> <li>・学生スタッフの組織化ということでは、一年の流れの中で、スケジュールを立てて検討していく余地がある。</li> <li>・次年度の管理栄養学科のAO入試に関しては、広島修道大学健康栄養学科のAO入試と比較検討していく必要がある。</li> <li>・指定校推薦入試における指定校の拡充計画により、沖縄県立知念高等学校から出願があった。今度どの程度の効果が出てくるか、次年度以降の募集状況を追っていく必要がある。</li> <li>・外部試験の導入により、2018年度公募制推薦入試</li> </ul>
--	--	---	---

<p>【修学支援】</p> <p>○教育のユニバーサルデザイン化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年4月1日の障害者差別解消法施行により、本学においても、障害のある学生の差別的取り扱いの禁止(法的義務)、合理的配慮の不提供の禁止(私学においては努力義務)を遵守し、教育のユニバーサルデザイン化に着手する。教育のユニバーサルデザイン化は、他大学同様本学においても、学生の多様化が進み、様々な困難や課題を抱えている学生の割合が漸増していることに対応するものであり、障害学生だけでなく、すべての学生に対し、高い教育的効果をもたらすと想定される。</li> </ul> <p>○学生支援の協働体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務課、学生課、健康管理センター、カウンセリングルーム、障がい学生高等教育支援室、アカデミック・サポート・センターが連携して、学生の修学支援に取り組む。</li> <li>・学則、修学規則、教務関係資料、カリキュラムブック、等に記載されている教務事項についての理解を深める。</li> <li>・課内の情報共有に努め、課員同士の協力体制・バック</li> </ul>	<p>加点として導入する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋学期に、教務課員と学生課員で、新入生全員面談を実施する。</li> <li>・4月に全学生対象として健康診断の実施と、新入生に対する心身の健康状況に関する調査を行う。</li> <li>・全学生に対して、健康管理センターで、健康診断の結果のフィードバックを行う。</li> <li>・健康診断の結果、要観察や要検査、要治療などの学生に対して、個別に保健師による面談を行う。</li> <li>・新入生に対して、心身の健康状況に関する調査のフィードバックを行う。</li> <li>・新入生の希望者に対して、カウンセリングを実施する。</li> <li>・アカデミック・サポート・センターで、学生の教育的ニーズに対応する講座を開設する。</li> <li>・各学科担当教務課員と、学務委員の教員との連絡を週1回の割合で行う(メールや電話、面談など)。</li> <li>・障害学生については、障がい学生高等教育支援室で、本人と保護者面談を年1回は行う。</li> <li>・障害者枠での就労をめざし、キャリアセンターと連携して、就労支援を継続的に行う。</li> <li>・教務課、学生課、健康管理センター、カウンセリングルーム、障がい学生高等教育支援室、アカデミック・サポート・センターとの連携、更なる活用について継続的に検討する。</li> <li>・学力不足や欠席多数による単位の取りこぼしの早期発見を行い、学科や学生課へ情報を伝達し、学生への早めの働きかけを行う。場合によっては保護者への連絡を行う。時間割作成のアドバイス等きめ細かい履修指</li> </ul>	<p>を行ない、当該高校への広報活動を行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記のとおり、外部試験の導入に関して、入試情報サイトや入試ガイドや広報活動を行なっている。</li> <li>・春学期は個別対応をし、秋学期に面談を実施し、サポートファイルに記録を行った。また、サポートファイルの利用に関する広報を、教授会にて行った。</li> <li>・調査実施済み。</li> <li>・フィードバック終了。</li> <li>・保健師による面談実施済み。</li> <li>・新入生に対するフィードバック実施済み。</li> <li>・新入生の希望者に対するカウンセリング継続実施中。</li> <li>・各種講座を開設中。</li> <li>・定期的に実施中。</li> <li>・学生本人と保護者面談を実施中。</li> <li>・就労支援継続実施中。</li> <li>・毎月1回「総合学生支援センター会議」を実施。学生課、教務課(ASC・地域連携)、障がい学生高等教育支援室の情報共有を行っている。</li> </ul>	<p>(第1回)では、生活デザイン学科C方式4名、児童教育学科C方式1名、2018年度公募制推薦入試(第2回)では、日本文化学科C方式2名、生活デザイン学科A方式1名、C方式2名、児童教育学科A方式1名、2018年度一般入試前期では、国際英語学科33名、一般入試後期では、国際英語学科6名の出願があり、一定の効果が上がった。</p> <p>○本学の障害学生支援体制について</p> <p>9月4日中村学園大学から視察。全国の私立大学が支援体制整備に取り組んでいる。本学の支援体制で、非常に遅れているのは、支援相談員の待遇である。現在、アルバイト2名で対応している。常勤職で1名雇用していただき</p>
---	--	--	--

<p>アップ体制を整える。また、総合学生支援センター内での情報共有、協力体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生一人一人の履修状況を把握し、学生の教育的ニーズの早期発見に努め、所属学科、チューター、ゼミ担当教員と情報を共有し、教育的対応を行う。</li> <li>不登校傾向のある学生を早期に発見し、学科教員と連携し、大学への適応を促進させる働きかけを行う。</li> <li>さまざまな事情（対人関係、病気、学力、他）を抱える学生へのきめ細かい支援を行う。</li> <li>学生にポータルサイト活用説明を十分行い、学生の情報へのアクセスを保証する。</li> </ul> <p>【生活支援・国際交流】</p> <p>○学生生活の充実と学生満足度の向上、本学が推進する「ライフキャリア教育」の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的学生支援 健康管理センター担当保健師交代に伴う混乱や新任者の負担を最小限にする。</li> <li>通学支援 学生・運営業者・本学の負担を最小化し、学生の満足度を最大化する最適解を見つける努力を続ける。       <ol style="list-style-type: none"> <li>引き続き路線バスの増便を広電バスに働きかけるとともに、「女学院大学前」バス停周辺の整備（拡幅工事）を早稲田社協、牛田東4丁目町内会とともに市へ働きかける。</li> <li>牛田駅一本学間の通学タクシー：2016年度完全登録制にしたところ、無駄な配車がほぼ皆無になり支出を削減できたので、サービスを継続。</li> </ol> </li> <li>経済的支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>複雑化する日本学生支援機構奨学金手続きに対応するため、担当者の業務負担を軽減する業務分担を考える。</li> <li>卒業後の返済が長期にわたることを踏まえ、同機構の奨学金を借りすぎないよう指導する。</li> </ol> </li> <li>積極的學生支援 学生が活躍するキャンパスづくり。       <ol style="list-style-type: none"> <li>学生自治会活動の活性化を図る。</li> </ol> </li> </ul>	<p>導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人からの申し出による修学面での配慮願に対して、上記部署と連携し、合理的配慮を保証する。</li> <li>基礎学力不足の学生に対して、アカデミック・サポート・センターで個別指導を行う。</li> <li>各学科担当教務課員と、各学科学務委員の教員との情報交換を行い、学科に情報を持ち帰ってもらうことで、学生の修学支援に役立てる。</li> <li>障害のある学生に対しては、定期的に面談を行い、支援の実際などを把握し、ニーズに合った支援が行われているかを吟味する。</li> </ul> <p>・具体的数値目標はないが、地元社協や町内会と力を合わせて「女学院大学前」バス停停車場拡張工事を実現させる。</p> <p>・学費未納による除籍（特に卒業年次生）をゼロにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月にカウンセリングルームを光風館4階に移動し、学生支援部署が光風館に集約されたことで、連携がスムーズに行くようになった。 学力不足学生への組織的対応については、学務委員会に原案を提案したものの、実施には至っていない。 教務課学科担当者が教学システムで把握できる機能（連続欠席、成績不振の目視）を使ってチューターに情報を提供。共同で学生対応を行っている。</li> <li>本人からの申し出、またはチューターからの申し出による対応にとどまる。</li> <li>会議において、「学科会等で検討するように」と言葉を添えるようにしている。</li> <li>週1回と決めず、随時連絡を取り合っている。</li> <li>障害学生に対して、教務課職員を中心として、新学期の時間割作成を支援した。</li> <li>合理的配慮の提供を実施した。</li> <li>7月まで前任者による業務支援をしたため、大きな混乱や過度な業務負担を回避できた。</li> <li>卒業生アンケートの結果を受けて、広電バスの便数増加の要望について、地域の町内会等の役員の方たちと話し合う予定。</li> <li>大学協会の理解のもと、「修学支援制度」を利用しやすくしたところ、家計の急変で生活に困窮していた4年生（1名）が利用し、除籍の事態を免れることができた。</li> </ul>	<p>たい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チューターに対応の温度差がある。</li> <li>ここ1,2年の経常費補助金調査で「組織的対応」が問われるようになっており、実際に本学学生に基礎学力不足者が存在するため、組織的対応（成績基準の設定、補習時間割、補習担当者の配置、等）が必要である。</li> <li>本人が困っていない場合、本人が自ら申し出ることができない性格等の場合は、見過ごされる。</li> <li>広島駅北口の再開発の進展とともに広島駅行き路線バスの利便性が徐々に整理されつつある（例：駅北口前に停留所が移設された）。引き続き地元住民とともに、本学前のバス停車場拡張を行政側に陳情していきたい。</li> <li>サポートメモを積極的に利用するように、教員に呼び掛ける。（9月13日合同教授会にて実施済み）</li> <li>JASSO奨学金利用率は若干低下しつつある。</li> </ul>
---	---	--	--

<p>②あやめ祭実行委員会活動の継続的支援（介入）。</p> <p>③各種広報媒体に学生の活動を積極的に紹介する。</p> <p>○国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ACUCA プログラムの実現 キリスト教系大学ならではの海外ネットワークを活用し、特徴ある交換留学プログラムを推進し、学生に安全・安心でしかも低コストの交換留学を経験させる道筋を作る。</li> <li>交換留学生の受入れ数を増やしキャンパスの多様性を高める</li> <li>海外フィールドワークへの支援 管理栄養学科の海外フィールドワーク（ハワイ）がさらに充実したものになるよう、支援・協力する。</li> </ul> <p>○ボランティアセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生への指導に力を入れる ライフキャリア教育の一環として教員が学生を指導しつつ進めていくプロジェクト型ボランティア以外の、学外団体へのボランティア派遣においては、担当職員が参加学生に対し、マナーや意識の面での指導をこれまで以上に努める。</li> <li>活動を認知する機会を増やす 大学の Web サイトや Facebook など活動を紹介し、参加学生のモチベーションと学外関係者の本学への好感度を向上させる一助とする。</li> <li>学生の活動参加をさらに促すための褒賞制度を創設 学生が参加する活動ごとにポイントを付与し、ポイント獲得上位者は学期末に学長から表彰していただく。</li> <li>地域社会の催事にこれまで以上のかかわりを持つ 牛田 3 学区の年中行事に学生をボランティアとしてできるだけ送り込み、地域での大学の存在感を高める。</li> <li>学生が個別に行っている社会的意義のある活動を公認・支援 学生の自主的活動を大学公認のプロジェクトとして支援し、広報的にも活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018 年度交換留学生数を派遣・受入れ各 4 名を目指す。</li> <li>交換留学生を中心に受入れ数を増やしキャンパスの多様性を高める…2018 年度の留学生数を 2016 年度の 1.5 倍（18→27 名）にする。</li> <li>月 1 回の定例研修を行う。</li> <li>大学の Web サイトへボランティア関連のニュースを週 1 回あるいは月 4 回以上掲載する。</li> <li>公式な褒賞制度として規程を整備し、実現させる。</li> <li>現行の 3 プロジェクトから 5 プロジェクトに増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的事由ではなく修学意欲の低下による学費滞納者 1 名が除籍となった。</li> <li>学内における交換留学制度の認知度を上げるため、秋学期オリエンテーションで、担当教員による説明会を実施する予定。また、ACUCA の学生交換プログラム (SMS) への積極参加によってアジア方面の交換留学生の受け入れを増やす環境を築く。</li> <li>ACCUCA プログラムの実現に向け、秋学期に開催される会議に課長が出席。</li> <li>年末に実施する FW 出発前の保護者説明会に協力。</li> <li>海外フィールドワークが無事に終了した。</li> <li>ボランティア活動のニュースを、5 月 6 回、6 月 2 回 WEB サイトに掲載した。</li> <li>現在調査中で制度実現まで至っていない。</li> <li>ボランティアセンター担当職員の育休のために、現在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ACUCA 加盟校のうち 3 女子大学と協定締結の実現をめざし、2018 年度に課長が現地訪問の予定しており、今後交流環境を確実に整備していく。</li> <li>いたずらにプロジェクトを増やすより、本学のボランティア活動にもっと主体的積極的にコミットするセンター付きの学生を育てる方向である。</li> <li>短くてもよいので活動状況を頻繁に学外発信するよう心がける。</li> <li>管理栄養学科の「食育サークル」活動の地域社会での知名度が上がり、機会あるごとに声をかけていただくようになっている。</li> <li>プロジェクト型ボランティア活動への積極支援が功を奏し、参加学生のめざましい成長がうかがえる。</li> </ul>
--	--	---	---

<p><b>【キャリア支援】</b></p> <p>○キャリア支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路登録票の提出を早める 昨年までは3年次11月末提出、それから面談開始としていたが、提出を早めることで4月からの面談（キャリア支援）を可能にする</li> <li>・学科・ゼミと連携したキャリア支援の実施 学生の特性に合ったキャリア支援を行うために、学科ごと、ゼミごとのセミナーを企画し、開催する</li> </ul> <p>○就職率のさらなる向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年度卒業生の実就職率（92.4%）を上回る 面談開始を4月とすることで、就職に向けての意識を向上させていく。</li> </ul> <p><b>【教育研究環境（施設設備）】</b></p> <p>厳しい財政状況に鑑み、また集中的な施設整備による借入金等の返済も多いことから、基本的には、施設設備の改修、修繕を中心に行っている現状であるが、学生ニーズへの対応や緊急性の高い施設設備の整備、ICT等にも対応していく必要がある。（当初予算に組み込んでいる場合も、優先的にエコキャンパス・ICT等の補助金の活用を行う。）</p> <p>具体的には、2017年度に第2次中期計画（経営改善計画）を策定し、その中で施設や設備の計画的な整備計画の見直しも行う</p> <p>○建物の耐震対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度毎に耐震診断の計画をたてて順次行う。</li> <li>・2016年度に耐震診断を実施したランバスホールの耐震天井補強工事 耐震性の向上等のため天井補強工事を設計担当業者と行い、見積要項の作成、入札、業者選定を行う。 なお、旧耐震基準（1981年以前）で建築された建物は6棟あるが、今後の対応について第2次中期計画策定の中で整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から段階的に受け付けて、11月までに全員の提出を完了させる</li> <li>・各学科と連携したセミナーを年2回以上開催する</li> <li>・ゼミとの連携セミナーを前年度以上の回数開催する</li> <li>・全学の実就職率94%、進路決定率100%を目標とする</li> <li>・2017年度は文学館の耐震診断を実施する。</li> <li>・2017年夏休みの期間内に着工する。</li> </ul>	<p>は縮小して活動を支援中。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路登録票の提出率は、現時点(3月1日)で国際61.5%、生活62.3%、栄養81.0%、幼心96.3%であり、全員提出の目標は達成できていない。</li> <li>・各学科と連携したセミナーは、現時点で生活1回、栄養3回、幼心2回実施したが、国際とのセミナーは開催できていない。</li> <li>・実就職率は90.9%であり、目標値を達成することができなかった。進路決定率は97.7%であり、ほぼ昨年並みとなった。</li> <li>・キャリア支援課の専任職員は、全員キャリア・コンサルタントの国家資格を取得した。</li> <li>・文学館の耐震診断は今年度は見送り、今後検討することとした。</li> </ul>	<p>学科によって差が大きいため、キャリア支援委員と連携しながら全員提出に向けて学生に働きかける必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教養学科との連携セミナーを早急に計画し、実施する。</li> <li>・学科と連絡をとりながら、「就職を希望しない学生」の動向を詳細に見極めた上で、さらにきめ細かい支援をしていく。</li> <li>・耐震化されていない建物については、耐震診断の実施について検討を進める必要がある。</li> </ul>
--	---	--	---

<p>・ヒノハラホールのトイレリニューアル工事（1階～3階）を行う。 女性職員の意見を取り入れ、仕様書を作成し、入札を行い、業者選定を行う。</p> <p>○校内環境の整備</p> <p>・構内の樹木の伐採及び整備を行う。 長い年月をかけ、樹木が成長し、乱立している状態にあるので、場所で順序を決めて樹木の伐採・植樹を行う。</p> <p>【教育研究環境（図書館）】</p> <p>○図書館見学ツアー及び図書館ガイダンスの充実</p> <p>・図書館見学ツアー及び図書館ガイダンスの内容・計画を点検する。 1年生前期必須授業「初年次セミナー」では、1コマ分を用いて、図書館司書が「図書館見学ツアー」と、「図書館ガイダンス」を行っており、その内容・計画を見直す。また、欠席者へのフォローを強化する。 (欠席者への対応は、教員から連絡のあった学生に対し行っていたが、図書館から連絡をとり、積極的にアプローチする。)</p> <p>○3年生対象「卒論のための文献ガイダンス」の充実</p> <p>・ガイダンス参加者を増やす。 希望のあったゼミに対応してきたが、各ゼミに対して、図書館からアプローチをして、「文献ガイダンス」日程を作成し、参加者数の増大を図る。</p> <p>【教育研究環境（研究環境・研究倫理）】</p> <p>○研究費の不正使用、研究における不正行為への対応</p>	<p>・2017年度中に構内は完了するよう計画立てて行う</p> <p>・4月26日（水）、5月10日（水）、5月17日（水）、5月24日（水）、5月31日（水）の「初年次セミナー」終了後に教員から欠席状況を把握し、ガイダンスの日時を確定する。場合によっては個別対応も行ない、「ツアー・ガイダンス」への受講、100%を目指す。</p> <p>・夏期休暇前、または後に実施し、全ゼミの参加を目指し、4年生になって、文献検索等の方法を知らないという学生を0にする。</p>	<p>・ランバスホール講堂天井改修工事については9月に着工し、2018年1月末完成した。なお、国の施設整備補助金（補助率1/2）の申請を行い39,420千円の採択が決定された。</p> <p>・第2次中期計画策定では耐震化に向けた検討が必要である旨記載予定である。</p> <p>・学生の利便性を考慮し1階～3階の予定を、全館（5階）リニューアルすることとし、8月に着工し、12月に完成した。女性に優しい仕様となるよう工夫した。</p> <p>・図書館と頌栄館の間の法面に森のようにあった樹木を伐採し、見通しのいい空間を実現した。法面と駐車場の境につつじを植え、法面への危険回避と、景観の美しさを考慮した。 今後も協力会の協力を得ながら桜の木の整備を行う。また、正門周辺の樹木も伐採し見通しをよくした。</p> <p>・予定通り、「初年次セミナー」における5回の「ツアー・ガイダンス」を行なった。5名の欠席があった（国際1名、生デ2名、幼心2名）。その5名について、担当教員から近況を聞き、1名（国際）の学生には後日ガイダンス等を実施した。残り4名の学生については、体調不良等により登校できないとの理由から、ガイダンスを実施することはできなかった。</p> <p>・各教員に対して、3・4年次の文献検索ガイダンスの実情について、アンケートを行なった。内容は、①教員が独自に「卒論のための文献検索ガイダンス」を行なっているのか、②図書館職員に委ねているのか、③ガイダンスの実施時間は授業時間中か、④授業時間外か、⑤ガイダンス実施学年について、である。回収率は100%ではなかったが、アンケート結果からは、何らかの指導が行なわれていることが判明した。</p>	<p>・キャンパスの美化の推進に努める必要がある。 来年度は、正門周辺環境整備に着手する。</p> <p>・図書館の活用については、学生の主体的な意識が重要で、一律な説明にはその有効性について限界がある。学生にとって重要であるという動機付けが課題である。</p> <p>・図書館が全ゼミの「卒論のための文献ガイダンス」の有無を把握する必要はないが、確実に実施されていることが重要なので、いずれかの時点で、図書館職員による「卒論のための文献ガイダンス」の必要の有無を問うこととする。</p>
---	--	---	--

<p>・公的研究費などの不正使用及び研究における不正行為に対する説明の徹底</p> <p>年2回行なっている説明会の内容を点検し、効果的なものとする。さらに、グリーンブックへの受講を義務とする。</p> <p>○科研費の採択者数の増加</p> <p>・説明会を実質的なものとするべく、内容を検討する。説明者との打ち合せを密にする。全体説明は1回であるが、個別的な対応を積極的に行なう。「本学学術研究助成」を「科研費」採択のための研究助成として位置づける。「助成」を受給する教員は「科研費」採択のための研究を進め、次年度、「科研費」に申し込む。</p> <p>【教育研究環境（情報環境）】</p> <p>○無線 LAN（Wi-Fi）環境の構築</p> <p>・フリー無線アクセスポイントの増設</p> <p>学生サービスのために、既存の認証式無線アクセスポイントに加えて、電波干渉しないフリー無線アクセスポイントの増設を検討する。これにより学生が Wi-Fi を利用することで、キャンパスに活気がでることを期待する。</p> <p>○情報セキュリティー対策</p> <p>・外部からのネットワークを通して、ランサムウェア等のウイルス、不正アクセスやサイバー攻撃等から守るためファイアウォール及びルータを更新する。</p> <p>○ソフィア2号館各コンピュータ教室のリプレースの検討</p> <p>・ICT活用を促進する環境づくりを検討し、タブレット端末を利用した情報リテラシー向上のための授業等を実現できるようにする。</p> <p>【社会連携】</p> <p>○地域連携センターの位置づけについて再検討</p> <p>・教務課との兼務を解消する。ボランティアセンター、総合研究所との統合について検討し、人員を配置し、</p>	<p>・これまでも公的研究費の不正使用はないが、不正使用、および研究における不正行為を0とする。</p> <p>・応募件数 10 件、新規採択数 4 件。</p> <p>・追加する場所はヒノハラホール 1 階~3 階 光風館 1 階</p> <p>・ソフィア 2 号館 4 階サーバ室において構築する。</p> <p>・ソフィア 2 号館 4 階 5 階 6 階各コンピュータ教室を、これからの教育の面から検討</p> <p>・事業計画を検討する母体がないため、年間計画、数値</p>	<p>・「学科別の文献ガイダンス」について、教員から要望のあったゼミに説明を行った。（国際（4件）、管理（1件）、幼児（2件））</p> <p>・公的研究費の説明会を6月7日（水）に行った。9月19日（火）には、「科研費公募要領の説明会」が予定されているが、その中で不正使用・不正行為への注意の喚起を行なう。また、これまで不正使用の事例はない。</p> <p>・グリーンブック、2月28日、全員が受講を修了した。</p> <p>・科研費応募件数 15 件。</p> <p>・応募件数 19 件、新規採択者数 5 件。</p> <p>・2017 年度事業計画にはなかったが、産学連携における受託研究・共同研究のための、本学教員の最新の研究課題等を紹介する「受託研究シーズ集」を1月29日に創刊し、ホームページに載せた。4名の教員を紹介した。</p> <p>・既存の無線アクセスポイントをフリー無線アクセスポイントに一部変更は出来ないため、方式等を検討中</p> <p>・情報管理委員会において、今後無線 LAN を学生にどう利用させるか、どれだけの利用があるのか、既存のネットワークに影響しないように回線を別にするとか、Wi-Fi 環境の整った教室が増えれば良いとの意見があり、整備を再検討することになった。</p> <p>・9月末に完了。回線スピードが 100M から 1G まで対応になり、ウイルス対策が強化された。また、新型のウイルスにも対応できる、より安全な機能も整備されている。</p> <p>・ソフィア 2 号館 4 階 5 階 6 階各コンピュータ教室リブ</p>	<p>・研究倫理の徹底を図るため、CITI は教員全員が受講したが、グリーンブックについては、今年度中に修了することを目標に順次受講中である。</p> <p>・科研費採択増に向けての実効性のある具体的方策、人員が必要である。</p> <p>・既存の認証装置（FEREC）設定を変更する必要がある。</p> <p>・情報管理委員会での議論を深める必要がある。</p> <p>・機器調達に向け、入札手続き等を円滑に実施し早期整備を目指す必要がある。</p> <p>・地域連携センターの規程を制定し、ボランティア</p>
--	--	--	---

<p>主担業務として年間の活動が行えるようにする。</p> <p>○地域連携の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛田地域、県内自治体及び企業からの問題解決への協力依頼を受け入れ、適切な部署、教職員、学生につなぐ。</li> <li>・継続する連携事業の進捗状況を随時確認する。</li> <li>・地域連携センターで把握していない社会連携事業に関する情報を収集する。(地域連携センターを通した事業を行うように促すことを含む)</li> </ul> <p>【社会貢献】</p> <p>○公開セミナー、教育ネットワーク中国生涯学習事業(シティカレッジ)、早稲田公民館主催事業(早稲田アカデミー)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開セミナー：10月の毎土曜日に実施する。(国際教養学科)</li> <li>・シティカレッジ：5～6月の金曜日5回実施する。(管理栄養学科)</li> <li>・早稲田アカデミー：5～11月にかけて6回実施する。(国際教養3名、生活デザイン・建築1名、管理栄養2名)</li> </ul> <p>【FD活動】</p> <p>○FD活動における問題点の抽出と改善の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD委員会の定期的開催</li> </ul>	<p>目標、到達目標等は立てていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センター規程を制定する。</li> <li>・東区役所との連携(地域連携センター・ボランティアセンター)</li> <li>・エキキタ活性化会議(地域連携センター)</li> <li>・牛田地区、牛田早稲田地区連携事業(ボランティアセンターほか)</li> <li>・安芸太田町、カゴメとの連携事業(管理栄養学科)</li> <li>・ダイワハウス・広テレイベントとの連携事業(生活デザイン・建築学科)</li> <li>・広島ドラゴンフライズとの連携事業(生活デザイン・建築学科)他</li> <li>・HPの情報を随時更新する。</li> <li>・100名以上の申し込み、80%以上の満足度を目指す。</li> <li>・50名以上の申し込み、80%以上の満足度を目指す。</li> <li>・20名以上の申し込み、80%以上の満足度を目指す。</li> </ul>	<p>レースに向け、予算要求するとともに教室仕様等を整備している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証委員会において組織のあり方を検討する。</li> <li>・6月1日、東区役所において連携会議。今年度の連携事案について協議を行った。</li> <li>・引き続き、永野准教授が会議に出席している。</li> <li>・エキキタスイーツラリー、8.6花の夕べ、広島駅南北自由通路開通記念行事等への学生・教員の協力</li> <li>・牛田公民館での料理教室実施(管理栄養学科)。</li> <li>・かうちゃん防災祭(学生・教員)、ほうずき祭(学生)、ふれあい祭(学生)、早稲田アカデミー講師派遣(教員)</li> <li>・安芸太田町の食材と㈱カゴメの商品を使用したメニューを開発し、10月に行われた「フード・フェスティバル」で披露。第2回ジビエ料理コンテスト家庭料理部門に、学生が考案した「しし肉洋風ちまき」が入選。</li> <li>・住宅2棟の設計案を提示し、9月に人気投票を実施。2年生と3年生が設計した住宅が完成する運びとなった。</li> <li>・学生有志がオリジナルバッグ、応援タオルのデザインを行い販売にも協力した。「特別セミナーⅠ・Ⅱ」で単位化。</li> <li>・現時点では、地域連携センター画面は更新していないが、随時「学科ニュース」で発信。</li> <li>・120名以上の申し込みがあり、72%の満足度であった。</li> <li>・別紙のとおり、実施済み。60名以上の申し込みがあり、盛況であった。</li> </ul>	<p>センターとの協働のもと、組織的な対応が必要とされる。今のままでは、他大学に遅れを取るばかりである。</p> <p>・学生指導や教授法に関する教員の疑問や不満等に</p>
---	--	---	---

<p>FD委員会を定期的開催し授業改善及び各学部学科のFD活動の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の全学的なFDの取り組みに関する提案 各学科におけるFDの方針や取り組み等に関する情報交換を行い、問題意識の共有を図る。FD委員会の検討事項は、各学科に持ち帰り、学科会等で審議を行い、メーリングリストを通して共有する。さらに、全学、または各学部学科における今後のFD活動の在り方について審議を行い、必要に応じて適切な改善策を提案し、教育の質向上を目指す。</li> </ul> <p>○FD活動のさらなる活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FD研修会開催の充実 以下の問題点や課題について検討するためのFD研修会を実施する。 「キャリア支援に関する研修」：学科のキャリア教育のあり方、各学科の教育理念の共有と、学科の学生指導取り組みの理解する 「学生の質保証に関する研修」：社会のニーズを把握し、学生の社会人基礎力を向上させる。 「大学の現状把握に関する研修」：本学が置かれている位置や社会から求められているものを把握する。 「中等教育と高等教育の連携に関する研修」高等学校の教育現場の現状を把握し、大学における学修に活かす。 「教学改善に関する研修」：ルーブリック評価の活用方法、学生指導に適したわかりやすいシラバスのあり方、学生指導に関する新システム導入とその有効活用、等に関する研修を行う。 「アクティブラーニングに関する研修」：学外講師を招聘し、ワークショップを含めた研修会を行う。</li> <li>FD研修会への教職員の積極的な参加を促進 FD研修会への出席率が、学科により100%～30%と大きな差が生じている。メールやポータルのお知らせ機能により、FD研修会の実施を周知させ、また、研修会の重要性について把握してもらう。さらに、各教員の出席率を公表し、学科毎に出席率向上に努力するよう働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期FD委員会を、4月、11月、3月に開催する。これらの他に、研修会や授業評価アンケート等のFD事案に関して、審議の必要性が生じた際は、その都度メールによる電子会議を行う。</li> <li>FD研修会（FD・SD研修会を含む）を年6～7回程度実施</li> <li>全学科80～100%、全体平均85%以上の出席率を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別紙のとおり、6回の講座を実施した。</li> <li>第1回FD委員会の開催 2017年5月31日（水）15:00～16:30</li> <li>第2回FD委員会の開催 2017年11月14日（火）15:45～17:45</li> <li>第3回FD委員会の開催 2018年3月20日（火）10:00～11:00</li> <li>第1回FD研修会の開催 「高校訪問で本学の改革・魅力を効果的に伝えるために」 (2017年5月10日（水） 16:00～17:30 ヒノハラホール5F アセンブリーホール (株)進研アド 営業本部中・四国支社)</li> <li>第1回FD研修会の教員出席率：84.7% (国際教養学科 71.4%、生活デザイン・建築学科 87.5% 管理栄養学科 100%、幼児教育心理学科 100%)</li> <li>「2017年度決算状況報告ならびに財務研修会」(2017年9月13日（水）9時30分～、法人事務局・財務課) 教員出席率：78.0% (国際教養学科 64.3%、生活デザイン・建築学科 100% 管理栄養学科 90.9%、幼児教育心理学科 83.3%)</li> <li>第1回FD／SD研修会の開催 「新しい授業支援ツール「Melly」導入と活用並びに教学システム・ポータルサイトリニューアルに関する研</li> </ul>	<p>ついて、FD委員会宛てに意見を寄せてもらい、対応を検討していく。また、学内でFDに関するアドバイスや指導ができる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FD研修会については、各学科や、専門が同じ教員グループでの研修会の積極的かつ自主的な実施を推奨する。</li> <li>学科によってFD研修会の出席率が異なる。特に出席率の低い学科に対して、学科主任、FD委員を通して積極的な出席を呼びかけていく。</li> </ul>
---	---	---	---

<p>・学外のFD研修会への教員の派遣 交通費、消耗品費、会費・会合費の予算を申請する。</p> <p>○PDCAサイクルに基づく教育改善</p> <p>・教務部との連携により、以下のPDCAサイクルを活性化させ、授業内容の改善を行い、教員の指導力の向上を図り、教員が学生の潜在能力や不足する力を把握する能力を向上させる。 カリキュラムの見直し・シラバスによる授業計画作成・授業目標の設定・ルーブリックによる学修目標と達成度の理解→授業の実施→授業評価アンケートの実施と結果分析→問題・課題の発見と改善の検討</p> <p>・担当科目へのアクティブラーニングの導入 アクティブラーニングに関するFD研修会を通して、各教員が担当授業内に、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れるよう努力する。</p>	<p>・年2～3回を予定</p>	<p>修会」(2017年9月13日(水)13:00～14:00)、 (株)ハウインターナショナル 取締役学びと成長サポート事業部長 桑木康宏氏 教員出席率：76.3% (国際教養学科67.9%、生活デザイン・建築学科100% 管理栄養学科81.8%、幼児教育心理学科75.0%)</p> <p>・「創立記念大学全教職員研修会」(2017年9月30日(土)、) 教員出席率：89.8% (国際教養学科78.6%、生活デザイン・建築学科100% 管理栄養学科100%、幼児教育心理学科100%)</p> <p>・第2回FD研修会 2017年11月29日(水) 15:00～17:00 「アクティブ・ラーニング入門」</p> <p>・第2回FD研修会の教員出席率：76.3% (国際教養学科71.4%、生活デザイン・建築学科100% 管理栄養学科81.8%、幼児教育心理学科66.7%)</p> <p>・第2回FD/S D研修会 「本学を取り巻く環境変化と今後の検討課題について」①2017年広報活動の総括と現在の志望状況、②新入試世代の志向と行動を把握する、③入試改革(他大学の取り組み事例)と本学の検討課題(2018年1月5日(金) 15:30～17:00)、株式会社進研アド 営業本部 中・四国支社、支店長：延原範昭、 支店長代理 新井千晶、青木伽尚子</p> <p>・第2回FD/S D研修会の教員出席率：83.1% (国際教養学科78.6%、生活デザイン・建築学科87.5% 管理栄養学科90.9%、幼児教育心理学科83.3%)</p> <p>(学外のFD研修会への教員の派遣)</p> <p>・教育ネットワーク中国・2017年度第2回研修会 テーマ「大学入試改革とアクティブラーニング」 講師：内村 浩 日時：2017年9月2日(土)15:30～17:30 場所：広島国際大学 広島キャンパス</p>	<p>初めてのアクティブラーニング(初級者向け)に関する研修会であったが、教員によっては既に授業にアクティブラーニングを取り入れている者もあり、活用の度合いに個人差が見られた。今後は、中級者・上級者向けのアクティブラーニング研修会の必要性を感じた。</p> <p>初等教育、中等教育の現場では、指導要領の改定に対応した新しい授業内容の導入が始まっており、大学側は、新教育を受けた生徒の受入のための準備が求められている。入試方法の改革と併せて授業の改革に関する研修を行う必要があるだろう。</p>
--	------------------	---	---

<p>○授業評価アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セメスター毎に、WEB による授業評価アンケートを実施する。</li> <li>・授業評価アンケート回答率の向上</li> </ul> <p>2015 年度に WEB 回答を導入してからも 80%以上の高い回答率を維持してきたが、2016 年度の後期は 80%を下回るようになった。回答率の向上のため、以下の対策を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業担当教員による学生への呼びかけを行う。</li> <li>②ポータルのお知らせ機能から、未回答学生への督促を行う（2度）。</li> <li>③授業時間内で、スマートフォンやPC 端末を用いてアンケートに回答させる。</li> </ol> <p>○評価アンケート結果に基づく学生へのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による授業改善目標の作成と公開</li> </ul> <p>授業評価アンケートの結果について、教員の改善案を公開し、学生にフィードバックする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各科目担当教員は、授業評価アンケートの結果を踏まえて、授業改善目標を作成し提出する。</li> <li>②不適切な表現や、授業改善に繋がらない内容を記載しないよう、「授業改善目標作成のガイドライン」を作成し配布する。また、各学科の FD 委員により内容を確認し、FD 委員会が公開不相当と判断した記述については、教員に修正・再提出を要請する。</li> <li>③提出された授業改善目標は、科目区分や学科別に分類し、PDF 化して WEB 上に公開する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善目標の提出率の向上</li> </ul> <p>授業改善目標の提出率は、2016 年度は学科により 100%～57%と差が生じている。対策として、メールやポータルのお知らせ機能により、提出締切りを周知させ、また、授業改善目標作成の重要性について把握してもらう。さらに、各教員の提出状況を公表し、学科毎に提出率向上に努力するよう働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生による授業評価アンケート集計結果報告書」の発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春学期 1 回、秋学期 1 回ずつ実施</li> </ul> <p>回答率 80%台に回復を目標とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出率 100%を目標とする</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年 3 月末発行予定</li> </ul>	<p>主催：教育ネットワーク中国（研修委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育ネットワーク中国・2017 年度第 3 回研修会（AP 第 1 回セミナー）</li> </ul> <p>テーマ「アクティブ・ラーニングの効果検証」</p> <p>講師：森 朋子 先生（関西大学教授）</p> <p>日時：2017 年 9 月 8 日（金）14：00～15：30</p> <p>場所：比治山大学 6 号館</p> <p>主催：教育ネットワーク中国（研修委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度春学期授業評価アンケートを実施した。</li> </ul> <p>学生の回答率：78.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度秋学期授業評価アンケートを実施した。</li> </ul> <p>学生の回答率：77%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 年度秋学期授業評価アンケートに対する、教員の「授業改善目標」を WEB 上に公開した（5 月）</li> <li>・2016 年度秋学期の授業改善目標の提出率：国際教養学科 83%、生活デザイン建築学科：100%、管理栄養学科：91%、幼児教育心理学科：92%</li> <li>・2017 年度春学期授業評価アンケートに対する、教員の「授業改善目標」を WEB 上に公開した（10 月）</li> <li>・2017 年度春学期の授業改善目標の提出率：国際教養学科 93%、生活デザイン建築学科：100%、管理栄養学科：100%、幼児教育心理学科：100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回 2016 年度秋学期授業評価アンケート実施の回答率 77.1%に比べると若干回答率が上昇した。しかし、80%台には回復していないため、今後の対策として、未回答の学生に対する督促連絡を実施、および授業内でスマートフォンやタブレット等の端末機器、PC 教室を活用した回答を呼びかける。</li> <li>・春学期と比較すると若干回答率が低下しているが、前年 2016 年度の秋学期と同じくらいの回答率を維持することができた。今後は、授業評価項目を見直すなど、回答率の向上のために、授業評価アンケート改善を検討を行いたい。</li> <li>・前回と比較すると、教員の授業改善目標の提出率は上昇しているが、まだ学科間での差が見られる。今後は、退職予定の教員に対しても、退職前であっても授業改善目標を必ず提出してもらえよう強く要請する。</li> </ul> <p>国際教養学科は、休職中の教員を除くと提出率が 100%となり、全学科 100%提出を実現できている。今後も継続して 100%を達成できるよう努力したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度の報告書についても、年度内での発行を</li> </ul>
--	--	--	---

<p>行 学内にて編集、製本を行う。・学内外のFD関係者に配布し、本学のFD活動について理解してもらおうと共に、問題点や改善点について寄せられた意見を集約する。</p> <p>【SD活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度実施されたSD実施計画実績をもとに、継続していくべき内容は継続し、新たに設けることと合わせて計画を立て実施する。</li> <li>・FD担当と連携し、2017年度SD年次計画表を作成し実施する。 外部講師も招き、講師が気を遣わずに本学に対して辛口な内容の改善点を伝えることのできるSDを実施する。</li> </ul> <p>【財政】</p> <p>○財務改善方策の着実な実行 2012年の学部学科再編後、国際教養学部において恒常的な定員割れが続いており、大学全体の経営に多大な影響を及ぼしている。2018年の学部学科再編に集中的に取り組むとともに、2015年度に行った「広島女学院財務改善検討委員会」の報告書に基づき具体的な施策を講じていく。今年度中に、第2次中期計画（経営改善計画）を策定し、さらに計画的な財務改善等に取り組む。財務改善には、事業計画の（1）～（6）の着実な実行が重要である。</p> <p>2018年の学部学科再編の完成年度（2021年度）までに、経常収支差額が黒字となるよう、それぞれの項目を大学教職員が一体となって取り組んでいく。また、魅力ある大学づくりのためには、施設・設備整備も重要であることから、計画的な整備を行う。</p> <p>こうしたことの実現のため、今年度、第2次中期計画（経営改善計画）を策定するとともにその計画に沿った実施を図る。</p> <p>計画の策定に当たっては、説明会等を開催するなど、教職員の協働参画と理解が得られる方策を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が意識を変え、心から「改革」を意識できるよう成果をだし、人財育成の一端を担うよう、その場限りにならないSDとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生による授業評価アンケート集計結果報告書 2016年度」を2017年3月31日付けで発行した。</li> <li>・2017年度のSD実施計画を策定し、4月に新任職員研修、9月に改組に係る研修会、12月にメンタルヘルス研修、1月にFDとの合同研修会を実施した。また、随時、階層別研修を行っている。 また、FD・SDとして、高校訪問に関することと、学内ポータルの新機能についての詳細な説明を実施した。</li> <li>○財務改善の着実な実行のためには、財務内容の現状と問題点を教職員が理解し、目標を定めて一体となって取り組む必要があることから、2017年9月13日に教職員82名の参加による財務研修会を開催した。 2016年度の決算状況、過去5年間の決算推移、財務比率に基づく本学院の課題、定量的な経営指標に基づく経営状態の区分等について説明し、教職員の協働参画意識の向上に努めた</li> <li>○2018年度を初年度とする第2次中期計画において、財務改善計画を具体化し、2018年3月開催の評議員会、理事会を経て成案化する予定で準備中である。 この計画には各年の収支指標や5年間で実施すべき施設・設備計画を織りこみ、PDCAサイクルが機能する計画としている。学部改組の最終年度である2021年度には大学の経常収支差額の黒字化を具体的目標として</li> </ul>	<p>予定している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SD活動を充実していくためには、内容によっては外部講師の活用を検討する必要がある。また、講師の選定に当たっては、真に本学の改善につながるように情報を十分収集するとともに、講演内容についても事前に綿密な打ち合わせが必要である。</li> <li>○2018年度を初年度とし、2022年度を最終年度とする中期計画を下期中に策定し、事業活動収支における経常収支の黒字化を図るための諸施策と時期を具体化したうえで説明会を開催し、協働参画の理解を求めることとする。</li> <li>○財務改善計画を実践していくためには、教育の質的向上や教育環境整備を充実させ、学生満足度を高めることによって学生・生徒の定員確保が重要となる。長期計画が成案化されれば教職員説明会を開催し、一体となって目標達成が可能となるよう環境整備に努める必要がある。</li> </ul>
---	--	---	--

<p>○予算査定制度の見直し</p> <p>昨年度は、予算要求書の見直しを行うとともに予算小委員会や各課ヒアリングを行ったが、法人内部の予算編成方法の見直しに合わせ、上半期までに既存事業の整理と見直しを行うとともに、より事業の必要性や効果等を検証しやすい予算要求書への見直しを行う。</p> <p>予算小委員会等において、事業内容の精査を行い、戦略的な事業の打ち出し及び既存事業の見直しを行う。学内における予算編成の仕組みを明確にする。</p> <p>○学納金収入等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員及び収容定員の確保</li> </ul> <p>2018年4月より、2学部5学科に再編し、女性の一生涯を視野に入れたプログラムを構築中であり、“学問”と“実践”の両方を学ぶことが出来るような教育体制の実現を目指す。こうした本学教育の理念を広く学生、生徒、保護者等に理解いただくために、学生支援や学校訪問、広報等に力を傾注する。</p> <p>2018年度学部学科再編時に、定員についても見直しを行う予定である。</p> <p>また、2017年度に第2次中期計画（経営改善計画）を策定し、その中で施設や設備の計画的な整備計画の見直しを行う。</p> <p>学生面談、アカデミック・サポート等きめ細かい教育支援や就職支援を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会中心の広報戦略、戦術の展開及び広報室と関係部署との連携強化～学内外広報の統一</li> </ul> <p>○外部資金の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付募集</li> </ul> <p>2016年度から、法人全体で130周年記念募金を募集しており、本年度についても、積極的な募集活動を行う。</p> <p>教職員、卒業生、関係団体等に理解を求め、さらに積極的な募集活動を行う。（行事におけるアナウンス、趣意書の再送付等） <li>・補助金の獲得</li> <p>経常費補助金については、定員未充足に伴う減額や学納金の減少及びそれに伴う教育研究経費等に伴う</p> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人全体：募金目標3億円（2016.10.1～2019.3.31）</li> <li>・2016年度の「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等経営強化集中支援事業」の配点計を上回る。</li> </ul>	<p>掲げ期中管理を強化していくこととしている。</p> <p>○2018年度予算編成にあたっては、2017年12月に各課から提出された予算要求に基づき、担当課長とのヒアリングによる必要性等の査定を実施した。その後大学の各学科から提出された予算要求は、学長をトップとする大学予算委員会を開催し、既存事業等の見直しを実施した。</p> <p>上記の検討をうけ経理規程に基づき、予算委員会を開催し、評議員会、理事会で審議するという仕組みの明確化は実践できた。</p> <p>○130周年記念募金の募集状況(2016.10.1～2018.3.9)</p> <p>1003件 45,437,972円（目標達成率15.1%） （うち2017年度 187件 15,663,807円）</p>	<p>○予算要求書の見直しについては着手しておらず次年度以降の課題としたい。特に新規事業については必要性や期待効果が検証可能な態勢としたい。</p> <p>2018年から稼動する第2次中期財務改善計画との整合性を確保することが今後の課題となる。</p> <p>○130周年記念募金募集開始から約1年半を経過し、2018年度が最終年度となることから、募金事業の中間報告書を作成し、その実績を開示するとともに、関係者に対し趣意書の再送付を行なう等により活動を積極化させる必要がある。</p> <p>○経常費補助金の経常費配分増減率は適正な学則定員数の設定が大きく影響することから、2018年度からの定員数削減による定員充足率等の改善効果は期待できる。経常費補助金の仕組みを理解し、</p>
--	---	---	--

<p>減額が年々大きくなっている。このため、中途退学者や休学者をさらに減少させる取り組みが重要であり、教職員がきめ細かいフォローを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年度採択された「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等経営強化集中支援事業」について、費用対効果を念頭に入れながら取組課題に応じた実績づくり並びに環境整備に注力する。</li> </ul> <p>「私立大学等改革総合支援事業」や「私立大学等経営強化集中支援事業」については、様々な項目について配点化され、その実施の有無が採否に大きく影響する。こうしたことから、昨年度の項目について、実施可能なものについては、費用面と効果にも配慮しつつ関係者による協議の場を設け、全学を挙げて早期に実施するとともに、今年度の新たな項目についても、可能な限り実施に向けて取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備事業を実施する際には、原則補助金の獲得を前提に実施する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助等への積極応募により研究費の獲得を行う。</li> <li>2016年度から個人研究費の一部を学内プール分の研究費等に振替え、一定の成果を求めている。これらを推進することにより、科学研究費等外部資金獲得につなげていく。</li> </ul> <p>○人件費の抑制</p> <p>人件費比率が67.5%と非常に高く、また年々上昇していることから、2017年度において、組織の見直しも含めた教職員数の定数管理や給与水準・手当等の見直しを行う。給与等の見直しについては、給与制度検討会を設け早急に具体的な内容を整理していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員人員枠の設定⇒設置基準+<math>\alpha</math></li> </ul> <p>今後の入学定員見直しを念頭に、2015年度方針として定めた、国際教養の5年間、原則定年退職者不補充などの方策を含めた対応を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の定数管理</li> <li>教職員の給与水準、手当等の見直し</li> </ul> <p>財務面において大学における定員割れ等の影響が大きいことを考慮しながら、法人連携による人事・給</p>	<p>○人件費比率を前年度と比較して下げる。(将来的には60%以下)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私立大学等経営強化集中支援事業」については、昨年度に引続き採択されたが、「私立大学等改革総合支援事業」については評点不足で不採択となった。学生数減少による定員充足率の低下を要因として経常費補助金の削減は避けられない状況で厳しい環境にある。</li> <li>ランバスホールの耐震対策事業として実施している天井の改修工事について施工金額の50%である39,420千円の採択が決定された。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度科学研究費補助金助成事業交付内定・決定額</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>8件</td> <td>10,140,000円</td> <td>(研究代表者)</td> </tr> <tr> <td>6件</td> <td>936,000円</td> <td>(研究分担者)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>財務改善策の一環として、2017年度は教職員全体で賞与の臨時的削減措置を実施し、人件費の抑制に努めた。抜本的な改正として人件費の適正化を目的とした新給与制度を導入すべく教職員説明会を実施し、2018年度からの施行を予定している。</li> </ul>	8件	10,140,000円	(研究代表者)	6件	936,000円	(研究分担者)	<p>学納金に占める教育研究比率を高めていくなど経費支出のバランスを考慮したうえで獲得に努める必要がある。</p> <p>「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等経営強化集中支援事業」の申請については得点を向上させるための具体的施策等を検討する必要がある。</p> <p>○人件費抑制のためには、教職員数の適正管理も重要であり、定年退職者不補充や業務の見直し、統合による人員削減策の具体的検討や実践が必要である。</p>
8件	10,140,000円	(研究代表者)							
6件	936,000円	(研究分担者)							

<p>与制度見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの見直し等による非常勤講師数の縮減 学部学科再編に合わせカリキュラムを見直し、学生の幅広い教育を担保しつつ、非常勤講師の削減も実現する。</li> </ul> <p>○経費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に影響がないものについて、可能なものから、経費執行の抑制に努める。 予算化されたものであっても、執行段階で実施の是非を検討するとともに、状況に応じて、更なる経費の抑制を行う。 また、執行に当たっては、規程に則って見積合わせや入札等を行うことは当然であるが、対象とならないものについても価格比較を行うなど縮減に努める。 なお、教育研究経費については、教育の質及び経常費補助金に影響することから、単に経費の削減の観点からではなく、重要性や費用対効果を学内で十分検討する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度からの学部学科再編にむけた広報活動強化に伴う管理経費の支出増加はあるが、その他の経費については前年を下回って執行され、経費削減の意識は定着してきている。学生の満足度を高めるため、教育システム、図書館の入退館ゲートやPCの更新を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算化された事業等であっても、支出権限を超える案件については、事前に稟議に基づく意思決定を明確化した上で、執行することを徹底する必要がある。また、経費削減を優先するあまり、教育環境維持のために本来投資すべき事業等について教職員が思考停止にならないよう長期的なビジョンを定めた上で、計画に基づき、執行する態勢とする必要がある。</li> </ul>
--	--	---	---